

509.19-To467



509.19
To46

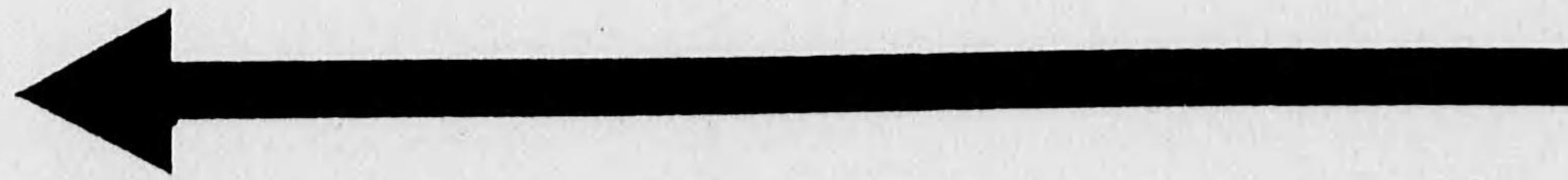
産業報國運動概要

×
複写

藤村利常編
(自昭和十六年七月一日
至同十七年有二十日)



始



509.19
T046

本納

和十七年九月

產業報國運動概要

東京產業報國會

509.19
T046

綱 領

- 一、我等ハ國體ノ本義ニ徹シ、全産業一體報國ノ實ヲ舉ゲ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ラムコトヲ期ス
- 一、我等ハ産業ノ使命ヲ體シ、事業一家職分奉公ノ誠ヲ致シ、以テ 皇國産業ノ興隆ニ總力ヲ竭サムコトヲ期ス
- 一、我等ハ勤勞ノ眞義ニ生キ、剛健明朗ナル生活ヲ建設シ、以テ國力ノ根柢ニ培ムコトヲ期ス

目 次

東京産業報國運動概要

一、警視廳管下ニ於ケル産業報國運動ノ沿革

(一) 支那事變發生當時ニ於ケル産業労働界ノ情勢

(二) 意思疏通施設ノ設置勸奨

(三) 産業報國運動ノ發展

(四) 財團法人東京産業報國會財團ノ設立

(五) 大政翼賛會傘下加入

二、東京産業報國會ノ機構

(一) 東京産業報國會々則

(二) 東京産業報國會支部規程

(三) 東京産業報國會々費規程

(四) 東京産業報國會機構要圖

三、東京産業報國會ノ事業(昭和十六年度)



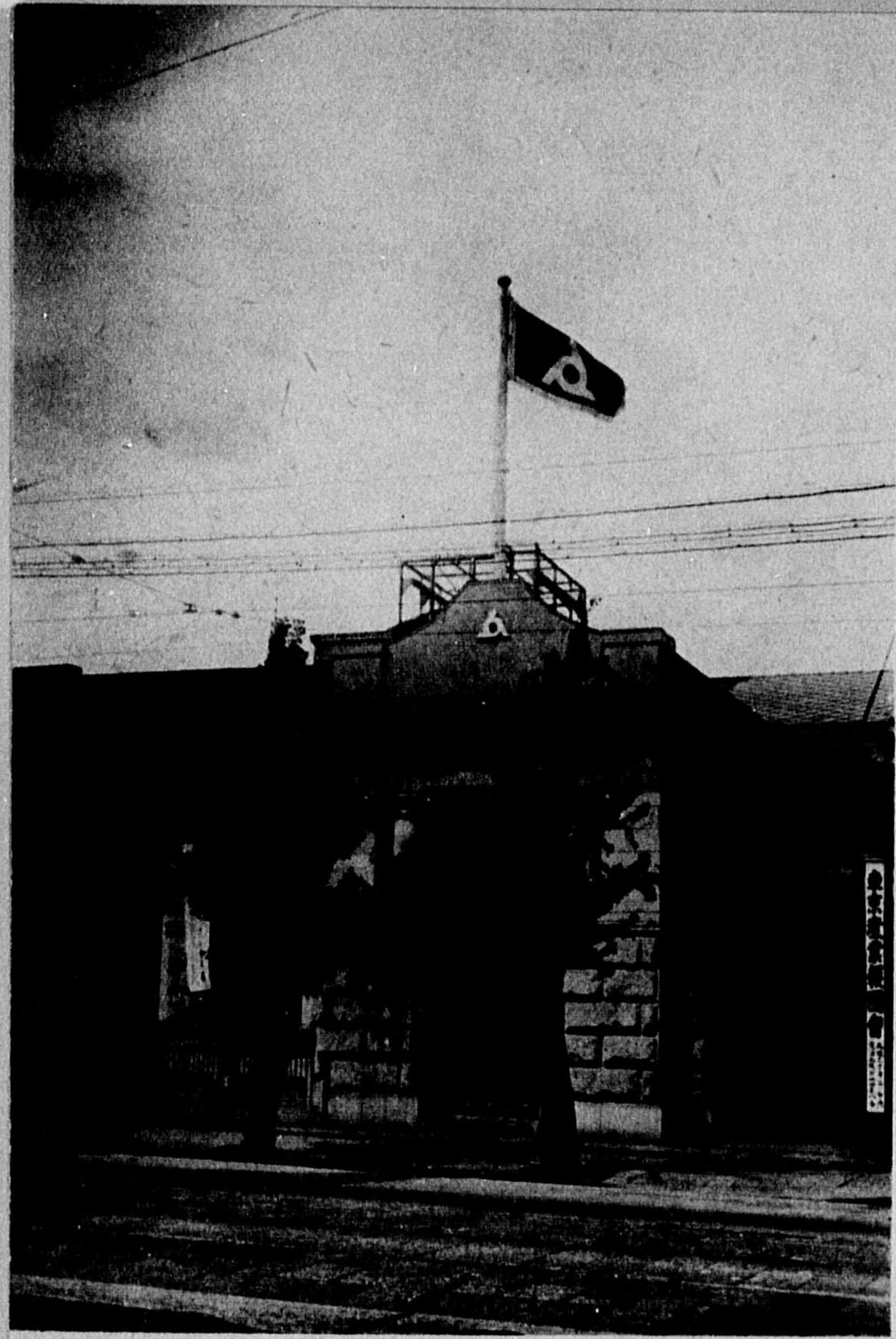


	(一)東京産業報國會ノ發展	三
1	單位産業報國會ノ組織整備	三
2	産報青年隊ノ組織推進	三
3	東京産業報國會ノ現勢	四
	(二)東京産業報國會第三回總會狀況	四
	(三)産業報國精神ノ普及徹底	七
1	支部旗ノ調製授與	七
2	優良産業報國會員ノ表彰	七
3	安全運動關係表彰	七
4	貯蓄成績優良産業報國會表彰式舉行	七
5	第二回優良會員表彰參宮旅行實施	八
6	産業殉職者慰靈祭ノ執行	八
7	宣戰ノ 詔書拜授式並ニ其ノ奉戴式舉行	八
8	宣戰ノ 詔書奉讀式舉行	九
9	宮城外苑整備勸勞奉仕ノ實施	九
10	講習會開催	〇
11	講演會開催	〇
12	懇談會・研究會開催	二
13	機關紙其ノ他各種印刷物ノ刊行	三
14	産報青年隊ノ指導鍊成	三
15	紀元節ニ於ケル産業報國會奉祝式ノ舉行	七
16	建國祭街頭行進參加	七
17	銃後奉公強化運動實施	七
18	決戦下ニ於ケル産業報國會ノ非常對策	七
19	敵機空襲ニ依ル殉職會員弔慰	七
20	大東亞戰爭完遂産業報國大講演會開催	七
21	新嘉坡陷落戰捷祝賀行事實施	七
	(四)産報道場ノ建設	七
	(五)生産力ノ擴充並ニ國策遂行ヘノ協力	七
1	第一期生産増強運動ノ實施	六
2	技能鍊錬大會開催	六
3	第四回東京投炭競技會開催	七
4	第十七回汽罐士講習會開催	七
5	第十四回「アセチレン」熔接士講習會開催	七
6	産業報國會ノ總選舉對策	六
7	東京市會議員選舉對策翼贊選舉貫徹運動實施	六

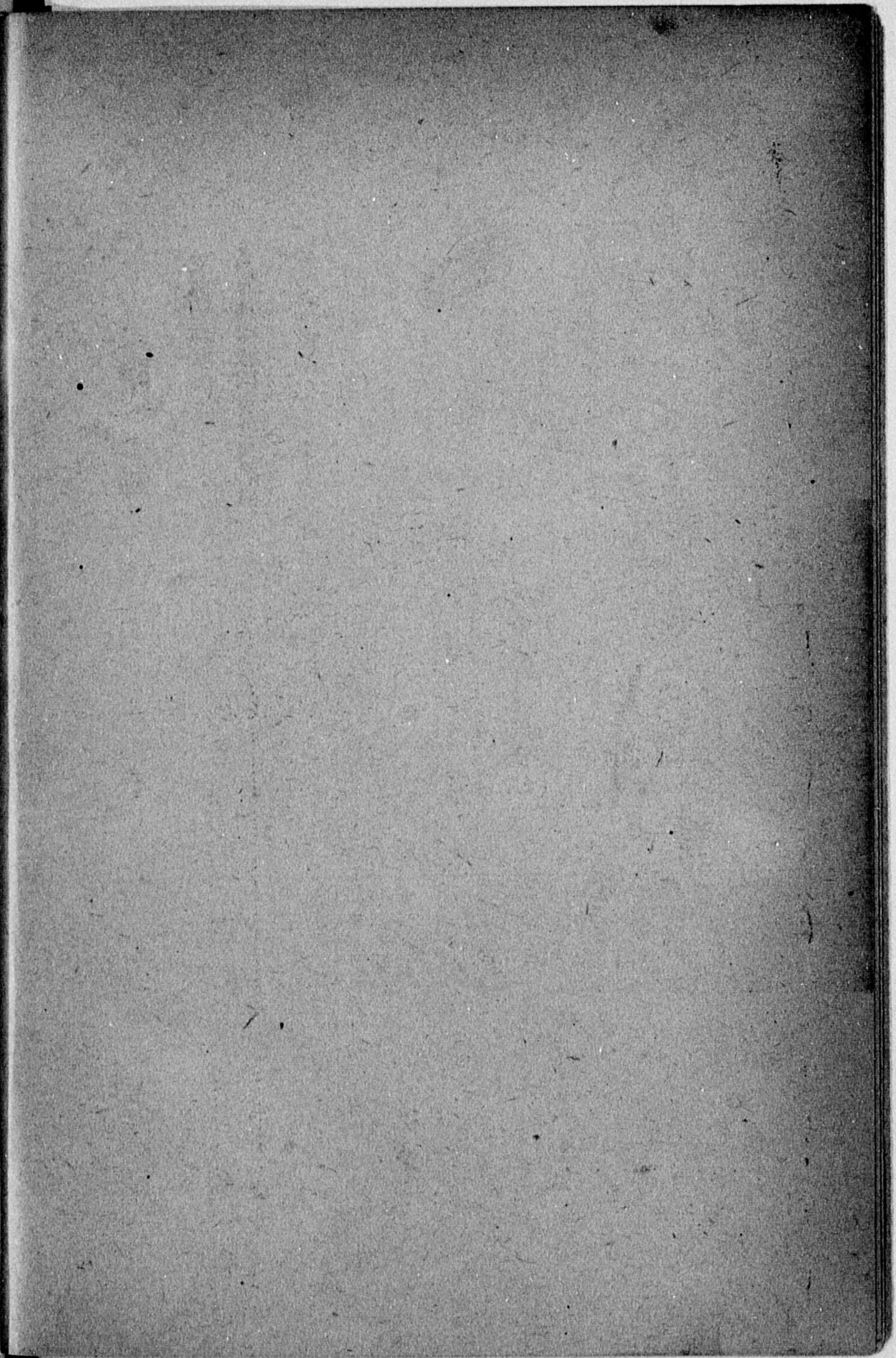
8	貯蓄ノ獎勵	六
9	貯蓄報國ト厚生演技ノ會開催	六
10	ポスター「二百三十億貯蓄完遂」作製配布	六
11	第十四回全國安全週間實施	六
	(六)福利厚生施設	
1	勞務者用必需品ノ配給	四
2	「海ノ健康村」開設	四
3	産業體育指導者講習會開催	四
4	第十回産業體育大會開催	四
5	體育並ニ榮養食巡回指導	四
6	修養慰安娛樂	四
	四、東京産業報國會ノ事業計畫	四
	五、東京産業報國會ノ豫算及決算	五
	(一)昭和十六年度歳入歳出決算	五
	(二)昭和十七年度會計豫算	六
	(三)道場會計收支一覽	六

「附 録」

支部活動狀況	三
東京産業報國會役員名簿	五



東京産業報國會事務局





場道報産京東・谷澁

産業報國運動概要

(自昭和十六年七月一日
至同十七年六月三十日)

一、警視廳管下ニ於ケル運動ノ沿革

(一) 支那事變發生當時ニ於ケル産業労働界ノ情勢

昭和十一年下半年頃ヨリ一般物價ハ昂騰ノ一途ヲ辿リタル爲メ、産業労働界ハ漸次不安動搖ヲ來スニ至リ、滿洲事變以來、稍々後退シツ、アリタル労働組合ハ好機逸スベカラストシテ、賃銀値上闘争並ニ闘争ヲ通ジテノ組合擴大運動ヲ活潑ニ展開スルニ至レリ。サレバ我が産業労働界ニ大小紛争議相踵ギテ續出シ、昭和十二年上半期ニ於テハ其ノ數實ニ百四十七件ノ多キニ及ビ、前年同期ニ比シ百二十件ノ増加ヲ示ス等其ノ狀況ハ極メテ憂慮スベキ情勢ニ在リ。



(二) 意思疏通施設ノ設置勸奨

叙上ノ情勢下ニ於テ支那事變ノ發生ヲ見タルヲ以テ、警視廳ニ於テハ事變遂行上労働紛争議ヲ未然ニ防止シテ産業労働界ノ平和ヲ確保シ、以テ軍需生産力ノ擴充強化ヲ圖ルコトガ喫緊ノ急務ナリト思考サレ、勞資ノ調整ニ努メラレタル處ナルガ、昭和十二年十一月遂ニ其ノ根本方策トシテ管下工場事業場ニ意思疏通施設ヲ設置セシムルコト、ナレリ。

意思疏通施設トハ勞資双方ヨリ一定數ノ委員ヲ選出シテ委員會ヲ組織シ、其ノ運営ニヨリ双方ノ意思ヲ疏通シ、以テ時局認識ノ昂揚ト紛争議ノ未然防止ヲ爲サムトスルモノニシテ、昭和十三年九月産業報國運動ニ發展の解消ヲナスニ至ル迄ニ其ノ結成ヲ見タルモノ二百九工場ニ及ビ、相當ノ成績ヲ收メラレタリ。

(三) 産業報國運動ノ發展

昭和十三年二月財團法人協調會ニ時局對策委員會ガ設置サレ、朝野ノ權威者ガ集マリ、時局下産業人ノ使命達成ニ就テ慎重審議ノ結果各企業内ニ産業報國會ノ組織ヲ勸奨スルコト、ナレリ。越エテ七月産業勞働界有識者ノ熱心ナル努力ト主務管廳タル厚生省及内務省ノ配慮ニ依リ、推進機關トシテノ産業報國聯盟ガ結成サレ、漸ク本運動モ軌道ニ乘リ、更ニ政府ノ積極的指導ニ依テ、本運動ハ急激ナル發展ヲ見ルニ至レリ。

斯クテ昭和十三年八月二十四日内務、厚生兩次官連名ヲ以テ、警視廳並ニ道府縣長官宛「勞資關係調整方策實施ニ關スル件」依命通牒ガ發セラレ、爾來産業報國運動ハ全國的ニ展開セラル、ニ至リ、警視廳ニ於テモ從來ノ意思疏通施設ヲ解消シテ本通牒ノ趣旨ニ基キ産業報國會ヲ結成セシムルコト、ナレリ。

警視廳ニ於テハ調停課ヲ事務主管課トシ、勞働課ヲ本運動推進ノ中核體トナシ、管下全警察署長ヲ督勵シテ組織勸奨ニ努メラレタル結果、凡ユル障碍ヲ排除シテ本運動ハ發展ノ一路ヲ辿リ、昭和十四年末ニ於テハ從業員五十人以上ヲ有スル工場事業場ハ概ネ其ノ結成ヲ完了スル等極メテ良好ナル成績ヲ收メタリ。

然ルニ産業報國會ノ組織擴大ニ伴ヒ、之ガ運営上聯合組織體ノ如キモノノ必要痛感セラル、ニ至リ、偶々昭和十四年四月内務、厚生兩次官連名ヲ以テ之ガ組織ニ關シ基本方策ヲ示サレタルヲ以テ、警視廳ニ於テハ直チニ警察署管區ヲ單位トスル地域別聯合會ノ組織ニ着手セラレタル處、同年八月末迄ニ島嶼ヲ除ク全管下ニ八十四聯合會(一署合同

シテ組織セシモノ(二)ノ結成ヲ完了シタルニ付キ、同年九月二十一日、日比谷公會堂ニ於テ管下ノ中央機關タル東京地方産業報國聯合會ヲ結成シ會長ニ警視總監ノ就任ヲ見タリ。

昭和十五年十一月二十三日全國的中央機關タル大日本産業報國會ガ結成セラレタルニ依リ、東京地方産業報國聯合會モ亦之ニ即應シテ改組ヲ斷行シ、名稱モ東京産業報國會ト改稱シ、同時ニ地域別聯合會ヲ本會ノ支部ニ改組スルト共ニ、産業報國運動發足當初ヨリノ懸榮タル東京工場協會ヲ本會ニ統合シ組織ノ擴大強化ヲ圖ル等、茲ニ本會ハ全ク面目ヲ一新スルニ至レリ。

(四) 財團法人東京産業報國會財團ノ設立

本會ハ産報運動ノ活潑化ニ伴ヒ、豫算モ逐年飛躍的ニ増加シ、資金ノ維持管理ニ關シテハ格別ノ留意ヲ要スト認メラレタルヲ以テ民法第三十四條ノ規程ニ基キ「財團法人東京産業報國會財團」ノ設立ヲ申請シ、昭和十六年七月四日厚生大臣ノ許可ヲ受ケ、以テ事業遂行ノ圓滑ヲ期シツ、アリ。

(五) 本會ノ大政翼贊會傘下加入

昭和十七年六月二十三日ノ閣議決定ニ基キ、各種國民組織確立運動ハ舉ゲテコレヲ大政翼贊會傘下ニ統一スルコトトナリ、産業報國運動モ亦大政翼贊會傘下ニ加入スルコト、ナレリ。蓋シ大政翼贊會ノ指導ノ下ニ各種國民運動ヲ統一シ、更ニ一層強力ニ之ヲ遂行セントスルモノニシテ、産業報國會ノ機構ニ改編ナキハ勿論、産業報國運動ノ事業方針ニモ變更ナク、從來ノ組織ノ儘大政翼贊會ノ傘下ニ加入スルモノトス。

二、東京産業報國會ノ機構

(一) 東京産業報國會々則

- 第一條 本會ハ東京産業報國會ト稱ス
- 第二條 本會ハ警視廳管下ニ於ケル産業報國會ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ麹町區九段三丁目二番地ノ二ニ置ク
- 第四條 本會ハ關係官廳其ノ他ト協力シテ大日本産業報國會々則第二十一條ニ依リ警視廳管下ニ於ケル産業報國會運動ヲ實施統轄指導シ綱領ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第五條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
- 一、産業報國精神ノ昂揚ニ關スル事項
 - 二、産業報國會々員ノ教育訓練ニ關スル事項
 - 三、産業報國會運動ノ指導養成ニ關スル事項
 - 四、各支部並ニ産業報國會ノ運営及事業ノ指導ニ關スル事項
 - 五、技術ノ向上其ノ他生産ノ高度能率發揮ニ關スル事項
 - 六、福利厚生生活指導及勤勞文化ノ向上ニ關スル事項
 - 七、産業勞働ノ調査研究ニ關スル事項

八、勞務統制ヘノ協力ニ關スル事項

九、一般國策ヘノ協力ニ關スル事項

一〇、會報其ノ他印刷物ノ刊行ニ關スル事項

一一、其ノ他本會ノ目的達成上必要ナル事項

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長

副會長

理事

監事

評議員

幹事

若干名

若干名 (内若干名ヲ常任トス)

若干名

若干名

若干名 (内若干名ヲ常任トス)

第七條 本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大日本産業報國會々則第二十一條第二項ノ規定ニ依リ警視廳總監ノ職ニ在ル者之ニ當ル

副會長其ノ他役員並ニ顧問ハ關係官吏産業報國會關係者及學識經驗アル者ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス但評議員ハ支部

長又ハ之ニ代ルベキ者ニ對シ之ヲ委囑ス

第九條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

理事ハ理事會ヲ構成シ會長ノ旨ヲ承ケ重要會務ヲ掌理ス

監事ハ會ノ會計ヲ監査ス

評議員ハ評議員會ヲ構成シ重要會務ヲ評議シ支部トノ連絡ニ任ス
幹事ハ會長ノ旨ヲ承ケ一般會務ヲ處理ス

顧問ハ重要會務ニ付會長ノ諮問ニ應ジ又ハ意見ヲ述ブルモノトス

第十條 役員及顧問ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨グズ官吏ニシテ役員タルモノノ任期ハ其ノ在職期間トス補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條 會議ヲ分チテ總會評議員會及理事會トス總會ハ毎年一回會長之ヲ招集ス但シ會長必要アリト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ招集スルコトヲ得

評議員會及理事會ハ必要ニ應ジ會長之ヲ招集ス

第十二條 會議ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル副會長之ヲ代理ス

第十三條 總會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、歳入歳出豫算ニ關スル事項

一、歳入歳出決算ニ關スル事項

一、會則ノ變更ニ關スル事項

一、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十四條 理事會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、事業計畫其他重要會務ニ關スル事項

一、總會及評議員會ニ附議スベキ事項

一、其他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條 評議員會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、總會ニ附議スベキ事項

一、其他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

評議員會ハ總會ニ附議スベキ事項ニシテ急施ヲ要スルモノノ代決ヲ爲スコトヲ得

第十六條 議事ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 本會ニ事務局ヲ設ケ必要ナル職員ヲ置ク事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本會ハ必要ナル産業部門ニ産業別部會ヲ置クコトヲ得

産業別部會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 本會ハ各警察署管下ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導スル爲支部ヲ置ク但シ狀況ニ依リ其ノ區域ヲ變更スルコトヲ得支部ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 本會ハ總會ノ議ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第二十三條 本則ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ會長之ヲ定ム

(二) 東京産業報國會支部規程

第一條 本支部ハ東京産業報國會〇〇支部ト稱ス

第二條 本支部ハ〇〇警察署管下ニ於ケル産業報國會ヲ以テ組織ス

第三條 本支部會員タル産業報國會ハ大日本産業報國會並東京産業報國會ノ會員タルコト

第四條 本支部ハ事務所ヲ〇〇警察署(又ハ〇〇)ニ置ク

第五條 本支部ハ關係官廳其他ト協力シテ〇〇警察署管下ニ於ケル産業報國會運動ヲ實施統轄指導シ綱領ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス

第六條 本支部ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、産業報國會精神ノ昂揚ニ關スル事項
- 二、産業報國會々員ノ教育訓練ニ關スル事項
- 三、産業報國會運動ノ指導者養成ニ關スル事項
- 四、産業報國會ノ運営及事業ノ指導ニ關スル事項
- 五、技能ノ向上其他生産ノ高度能率發揮ニ關スル事項
- 六、福利厚生生活指導及勤勞文化ノ向上ニ關スル事項
- 七、産業勞働ノ調査研究ニ關スル事項
- 八、勞務統制ヘノ協力ニ關スル事項
- 九、一般國策ヘノ協力ニ關スル事項
- 一〇、會報其他印刷物ノ刊行ニ關スル事項
- 一一、其他必要ナル事項

第七條 本支部ニ左ノ役員ヲ置ク

名譽支部長	一名
支部長	一名
副支部長	若干名
理事	若干名
監事	若干名
顧問	若干名

第八條 名譽支部長ハ關係警察署長ノ職ニ在ル者ニ對シ東京産業報國會々長之ヲ委囑ス

支部長及副支部長ハ産業報國會關係者中ヨリ會員ノ推薦シタル者ニ對シ東京産業報國會々長之ヲ委囑ス

理事及監事ハ關係警察署員、産業報國會關係者及學識經驗者中ヨリ支部長之ヲ委囑シ内若干名ヲ常任トス

顧問ハ支部長ノ諮問ニ應ジ又ハ意見ヲ述ブルモノトス

第十條 役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ゲズ

官吏ニシテ役員タルモノノ任期ハ其ノ在職期間トス

補缺ニヨリ就任シタル役員ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條 會議ヲ分チテ總會及役員會トス

總會ハ毎年一回支部長之ヲ招集ス但シ支部長必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得役員會ハ必要ニ應ジ支部長之ヲ招集ス

第十二條 會議ノ議長ハ支部長之ニ當ル、支部長事故アルトキハ支部長ノ指名シタル副支部長之ヲ代理ス

第十三條 總會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、歳入歳出豫算ニ關スル事項

一、歳入歳出決算ニ關スル事項

一、其ノ他支部長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十四條 役員會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、總會ニ附議スベキ事項

一、事業計畫其ノ他重要會務ニ關スル事項

一、其ノ他支部長ニ於テ必要ト認メタル事項

役員會ハ總會ニ附議スベキ事項ニシテ急施ヲ要スルモノノ代決ヲ爲スコトヲ得

第十五條 本支部ハ必要ニ依リ専門部會若クハ専門委員會ヲ置クコトヲ得

事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 本支部ハ必要ナル區域ニ分會若ハ班ヲ設クルコトヲ得

分會若クハ班ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本支部ノ經費ハ會費寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ充ツ

會費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 本支部ハ總會ノ議ヲ經テ特別會計ヲ置クコトヲ得

第二十條 本支部ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十一條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ役員會ノ議ヲ經テ支部長之ヲ定ム

(三) 東京産業報國會々費規程

第一條 本會ノ會費ハ各産業報國會之ヲ分擔齎出スルモノトス

第二條 會費ハ基礎會員一人ニ付月額十六歳以上ノ男子拾錢、十六歳未満ノ男子及女子七錢ノ割合トシ原則トシテ事

業主七會員三ノ割合ヲ以テ分擔スルモノトス但シ應召中ノ會員ハ其ノ期間中ノ會費ヲ免除ス

第三條 會費ハ毎年四期(第一期自四月至六月、第二期自七月至九月、第三期自十月至十一月、第四期自一月至三月)

ニ分テ各期第一月中ニ各三ヶ月分ヲ支部ヲ經由シテ納入スルモノトス

前項ノ會費計算ノ基礎トナルベキ會員數ハ前期末日現在ノ數ニ依ル

第四條 新タニ結成シタル産業報國會ノ其ノ期ニ於ケル會費ハ結成ノ翌月分ヨリ月割ヲ以テ結成ノ翌月中ニ之ヲ納入スルモノトス

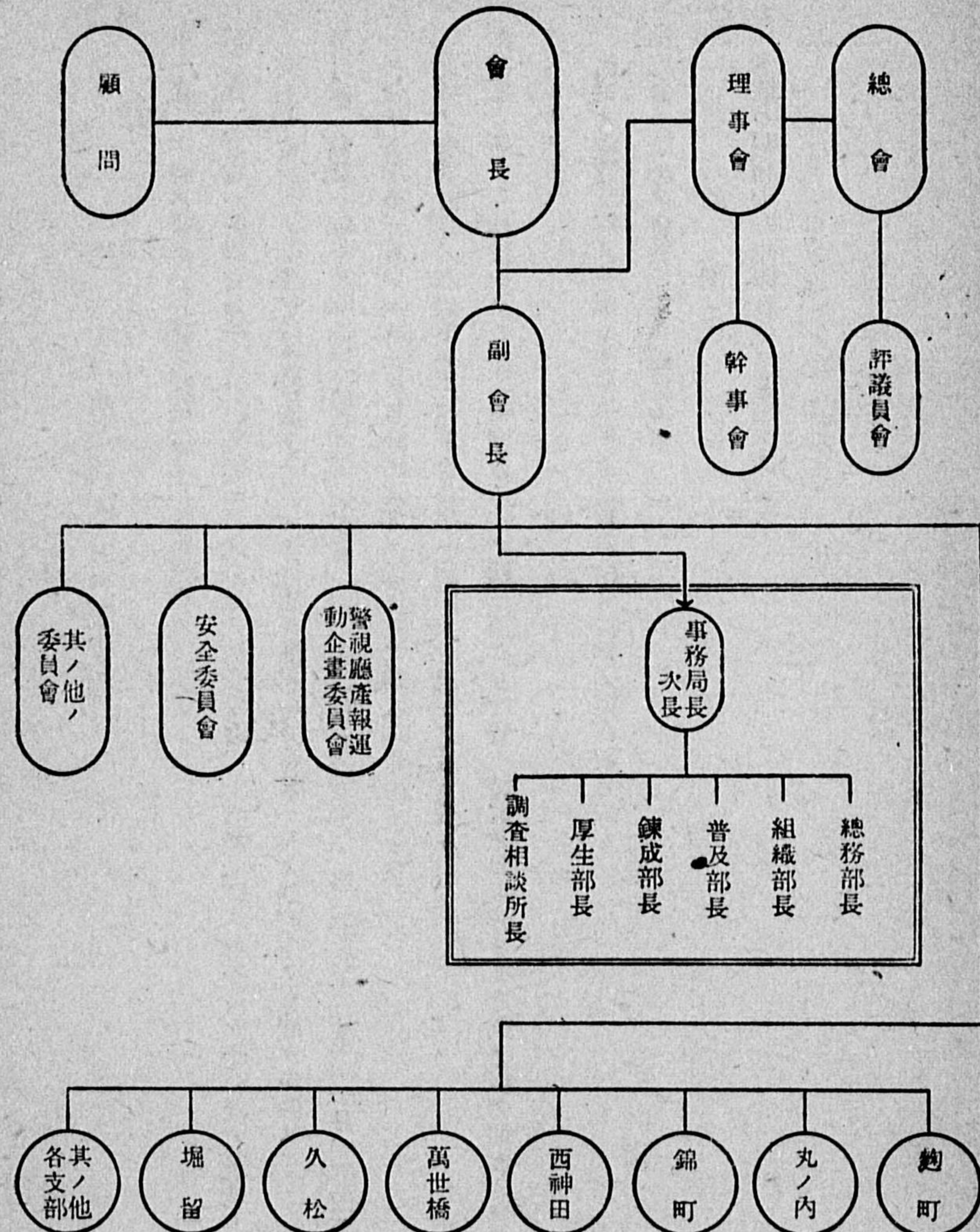
前項ノ會費計算ノ基礎トナルベキ會員數ハ結成當日ノ現在數ニ依ル

第五條 既納ノ會費ハ之ヲ返戻セズ

附 則

本則ハ昭和十七年四月分ヨリ之ヲ適用ス

(四) 東京産業報國會機構要圖



キ置ヲ部支ノ八八ニ每區管察警
 ス任就ニ長部支譽名ハ長署察警人間民ハ長部支

三、東京産業報國會ノ事業 (昭和十六年度)

(一) 東京産業報國會ノ發展

1 單位産業報國會ノ組織整備

昭和十六年八月、大日本産業報國會ハ、戦時下ノ産業報國運動ノ使命ニ鑑ミ、「産業報國運動ノ組織整備要綱」ヲ決定シ、産業報國會ノ組織ト工場事業場ノ生産組織ト表裏一體制ヲ期シ、職場ノ職制ヲ基礎トスル部隊組織ニ編成スルコト、ナレリ。蓋シ從來ノ組織ヲ以テシテハ、勤勞ノ統轄ニ關シ緊急事態ニ對應スルニ充分ナラザル憾アルニ依ル。サレバ本會ハ本要綱ニ基キ、先ヅ大工場、事業場ノ産報組織ノ再編成ニ着手シ、之ヲ管下ニ通牒スルト共ニ、同年九月大日本産業報國會ト共同主催ノ下ニ之ガ趣旨徹底ノタメ單位産報改組懇談會ヲ開催シ、其ノ回数六回ニ及ビタリ。而シテ此ノ間「組織整備要綱解説」「五人組制ノ要項」等各種ノパンフレットヲ管下ニ配布シ、此ノ趣旨ノ普及徹底ニ努メタル結果漸ク一般産業人ノ認識スル所トナリ、單位産報ニ於ケル組織ノ整備亦顯著ナルモノアリ。斯クシテ、本會ハ昭和十七年四月新タニ單位産業報國會々則ヲ決定シ、全産業報國會ノ改組ヲ勸奨スルコト、ナリ目下之ガ進捗中ナリ。

2 産報青年隊ノ組織推進

産業報國運動ノ推進隊トシテノ産報青年隊ニ關シテハ、本會ハ昭和十六年三月以來銳意之ガ組織ト運営ニ努メタル

處昭和十七年五月末現在ニ於テ九〇一隊、其ノ隊員數實ニ十四萬二千二百五人ノ組織ヲ完了シ、産報運動部面ニ於テ一大推進力ヲ形成スルニ至レリ。

3 東京産業報國會ノ現勢

産業報國會ノ結成ニ就テモ本會ハ銳意之ヲ勸奨中ノ處、昭和十七年六月末現在ニ於テ會數一萬六千九百二十、會員數九十八萬一千二百三十六人ニシテ昨昭和十六年六月末現在ト比較シ大差ナシ。蓋シ産業報國運動ノ提唱以來約三年漸ク全産業人ニ理解滲透セラレ、産報組織方概ネ全工場事業場ニ普及シタルニ依ルモノト信ズ。

(二) 東京産業報國會第三回總會

本會ハ昭和十六年十一月二十八日第三回總會ヲ開催セルガ總會ニ先立テ支部旗新調奉告祭並ニ支部旗授與及ビ優良會員其ノ他ノ表彰式ヲ舉行セリ。其ノ狀況左ノ如シ。

一、支部旗新調奉告祭

- 1、日時 十一月二十八日午前十時ヨリ同十一時ノ間
- 2、場所 日比谷公會堂
- 3、奉告祭狀況

演壇ニ祭場ヲ設ケ會長以下本部役員列席官幣大社日枝神社神職ニヨリ嚴肅ニ支部旗新調奉告祭ヲ執行ス

二、第三回總會並支部旗授與及優良會員表彰

- 1、日時 十一月二十八日午後一時ヨリ同四時ノ間

2、場所 日比谷公會堂

3、出席者 會長以下本部役員一般會員代表、被表彰者等約三千名

4、支部旗ノ授與 麴町支部長以下八十七各支部長ニ對シ會長ヨリ之ヲ授與ス

5、優良會員ノ表彰

イ、永年勤績優良會員

蒲田支部東京計器産業報國會細川一郎外一千九十四名

ロ、技術又ハ事務卓越優良會員

三田支部國鐵鐵工所産業報國會須藤充治外八十三名

ハ、改良發明考案優良會員

丸ノ内支部東京市電氣局産業報國會門田平吉外三十六名

ニ、災害豫防優良會員

西新井支部理研護謨工業株式會社荒川工場産業報國會小池源一外六名

ホ、第十四回全國安全週間實施成績優良産業報國會

國華産業報國會謝恩會外百八十一産業報國會

ヘ、同安全週間實施成績優良安全委員會

白洋社産業報國會安全委員會外十九安全委員會

ト、同安全週間實施成績優良安全委員

日曹大島製鋼所産業報國會安全委員黒澤啓三郎外七名

6、總會

昭和十五年度事業報告、昭和十五年度決算報告、昭和十六年度豫算報告、東京産業報國會々則變更ノ件承認、東京産業報國會々費規程變更ノ件承認後會長挨拶、綱領朗讀、宣誓、答辭、祝辭等アリテ總會ヲ閉ヂ、本會囑託吉村岳城師作詩吟物語「西郷隆盛」ノ餘興アリテ後散解ス

宣誓

今ヤ國際情勢ハ極度ニ緊迫シ皇國ハ將ニ未曾有ノ重大時局ニ直面ス我等産業人ノ責務洵ニ重且ツ大ナリ

茲ニ帝都百萬ノ我等會員ハ御稜威ノ下悠久三千年ヲ貫ク肇國ノ大精神ニ則リ皇國産業ノ道ヲ體シ事業一體鐵石ノ體制ヲ整ヘ不撓ノ決意ヲ以テ産業報國ニ邁進シ以テ皇謨ヲ翼贊シ奉ラムコトヲ期ス

右 宣誓ス

昭和十六年十一月二十八日

東京産業報國會第三回總會

(三) 産業報國精神ノ普及徹底

1 支部旗ノ調製授與

本會ハ全産業人ノ團結ノ中心タル本部旗並ニ支部旗ヲ調製シ、昭和十六年十一月二十八日第三回總會席場ニ於テ嚴肅ナル入魂式ヲ執行シタル後、之レヲ管下全支部ニ授與セリ。

2 優良産業報國會員表彰安全運動關係表彰

本會ハ同ジク第三回總會席上全管下ヨリ選抜シタル優良産業報國會員一、一八一名ヲ表彰シ、次デ表彰參官旅行者ニ對シテモ同ジク表彰狀ヲ追授與シ、昭和十六年度ニ於テハ計二三五八名ヲ表彰セリ。

3 安全運動關係表彰

同ジク第三回總會席上安全運動成績優良ナルモノヲ表彰シタリ、表彰ヲ受ケタルモノ左ノ如シ。

(イ) 産業報國會(工場) 一八六會

(ロ) 安全委員會(工場) 二〇會

(ハ) 安全委員 九七名

(ニ) 勞務者 五九名

4 貯蓄成績優良産業報國會表彰式舉行

大東亞戰爭下貯蓄増強ノ重要性ニ鑑ミ愈々貯蓄報國ニ邁進スル爲、本會ハ貯蓄成績優良産業報國會ノ表彰式ヲ舉行セリ。其ノ狀況左ノ如シ。

(イ) 日時 六月十九日午後一時

(ロ) 場所 日本青年館

(ハ) 被表彰産業報國會數 一三三會

尙表彰式終了後引續キ警視廳ト共同主催ノ下ニ「貯蓄獎勵」「金屬特別回收」並ニ「工場法施行規則ノ改正」ニ關スル講演會ヲ開催シタル處、參會者千六百名ニ及ビ頗ル盛況ヲ極ム。

5 第二回優良會員表彰參宮旅行實施

本會ハ優良會員ヲ表彰スル目的ヲ以テ伊勢神宮、橿原神宮、畝傍御陵ヲ參拜セシメ、皇國肇造ノ宏遠ニシテ國體ノ尊嚴ナルコト世界無比ナルノ信念ヲ深カラシメ、愈々敬神崇祖ノ念ヲ養ヒ産業報國精神ノ昂揚ヲ圖ルト共ニ、現下ノ非常時局突破ノ祈願ヲ爲サシムル爲メ、昭和十六年十月二十一日ヨリ二十四日ニ亘ル四日間表彰參宮旅行ヲ實施セリ。參加者約六百名。

6 産業殉職者慰靈祭ノ執行

(イ) 日時 昭和十六年十一月二十四日午後一時

(ロ) 場所 軍人會館

(ハ) 祭神 新一四二柱 舊一、〇三七柱 計一一七九柱

(ニ) 參列者 本部役員、遺家族並ニ關係產報會長約二、〇〇〇名

7 宣戰ノ 詔書拜授式並ニ其ノ奉戴式舉行

昭和十六年十二月八日畏クモ米英兩國ニ對シ宣戰ノ 詔書ヲ渙發アラセラレ、億兆臣民ノ嚮フ處ヲ昭示シ給ヘルハ定ニ恐懼感激ニ堪ヘズ、大日本産業報國會ニ於テハ此ノ優渥ナル 聖旨ヲ全産業人ニ徹底セシメ、更ニ一層産業報國

ニ挺身セシムルノ趣旨ヲ以テ 大詔ヲ謹寫シ全産業報國會ニ對シ拜授スルコト、ナリタルヲ以テ、本會ハ昭和十七年二月八日午前十時警視廳得剛館ニ於テ宣戰ノ詔書拜授式並ニ其ノ奉戴式ヲ舉行シ、管下全産業報國會ニ拜授セリ。而シテ各支部ニ於テハ詔書拜授式ヲ、單位産業報國會ニ於テハ各々詔書奉戴式ヲ舉行シ、夫々誓詞ヲ行ヘリ。

誓 詞

昭和十六年十二月八日畏クモ米英兩國ニ對シ宣戰ノ大詔ヲ渙發セラレ億兆臣民ノ嚮フヘキ處ヲ昭示シ給フ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘス我等産業人ハ謹ンテ聖旨ヲ奉體シ悠久三千年ヲ貫ク肇國ノ大精神ニ則リ産業報國ノ赤誠ヲ捧ケ協心戮力鐵石ノ決意ヲ以テ職分ニ精勵シ全産業一體總力ヲ舉ケテ聖戰目的完遂ニ邁進シ以テ聖慮ヲ永遠ニ安ンシ奉ラムコトヲ誓フ

昭和十七年二月八日

東京産業報國會支部長總代

三田支部長 大塚 榮吉

8 宣戰ノ 詔書奉讀式舉行

昭和十六年十二月八日畏クモ米英兩國ニ對シ宣戰ノ 詔書ヲ渙發シ給フ、寔ニ恐懼感激ニ堪ヘス、本會ハ全會員ヲシテ聖旨ヲ奉體シ、舉員一體職分奉公、以テ生産増強ノ大任ヲ果シ戰勝ノ決意ヲ固メシムル爲、昭和十六年十二月十三日各單位産業報國會ニ於テ詔書奉讀式ヲ舉行スル様通牒セリ。

9 宮城外苑整備勤勞奉仕ノ實施

本會ハ工場ノ休電日ヲ利用シ、昭和十七年一月及ビ同年四月ノ二回ニ亘リ、宮城外苑整備勤勞奉仕ヲ實施シタル處勤勞奉仕者 總計二一、九六二名ノ多キニ及ブ。

10 講習會開催

本會ハ産業部門別ニ、殊ニ幹部職員並ニ技術者ノ鍊成ニ重點ヲ置キ、本期間中産報指導者講習會ヲ開催スルコト二十五回ニ及ビタリ。其ノ開催状況左ノ如シ。

(イ) 支部職員講習會	二回	受講者	一〇〇名
(ロ) 女子講習會	六回	同	三〇八名
(ハ) 鐵工業會會長	二回	同	八五名
(ニ) 化學工業會會長	三回	同	一五四名
(ホ) 女子幹部	二回	同	九八名
(ヘ) 雜工業會會長	一回	同	九〇名
(ト) 職員側幹部	一回	同	四八名
(チ) 行事指導者	一回	同	三七名
(リ) 五〇人以上單位産報會長	四回	同	一三八名
(ヌ) 百人以上同	一回	同	三一名
(ル) 技師技手	二回	同	一〇七名
計	二五回		一、一九七名

尙大日本産報ト共同主催ニテ、職長教育擔任者養成講習會二回、訓練指導者地區別鍊成會一回開催シタリ。

11 講演會開催

本會ハ産報精神ヲ昂揚スル爲講演會ヲ開催シタルガ、其ノ状況左ノ如シ。

(イ) 勤勞總動員事業場激勵遊説

昭和十六年十一月四日ヨリ十二月十二日ニ至ル期間ニ於テ、管下二二三箇所ニ於テ行フ。

(ロ) 決戦下生産増強事業場激勵講演會

大日本産報ト共同主催ノ下ニ、昭和十七年二月二日ヨリ三月十四日ニ至ル期間ニ互リ、管下二八箇所ニ於テ開催ス

12 懇談會・研究会開催

(イ) 産報運営現地研究会

昭和十六年七、八月ノ二ヶ月間ニ互リ開催ス。開催度数 七回

(ロ) 産報指導者講習會受講者懇談會 開催度数 五四

13 機關紙其ノ他各種印刷物ノ刊行

本會ハ啓蒙、宣傳、指導ノ機關トシテ各種印刷物ヲ刊行セルガ、本期間中ノ刊行状況左ノ如シ。

(イ) 機關紙「東京産業報國」	毎月一回	印刷部數	一回	約八七、〇〇〇部
(ロ) 東京産報時報	毎月一回	印刷部數	一回	約二〇、〇〇〇部
(ハ) 東京産報ノ栞	毎月一回	印刷部數	一回	約一〇〇〇、〇〇〇部
(ニ) 指導資料	発行回数 一三回	発行部數	一回	約二〇、〇〇〇部

本期間中發行シタルモノ左ノ如シ。

- (1) 煤煙防止ト石炭消費ノ節約 (工場課編)
- (2) 産業報國青年隊組織方針 (大日本産報編)
- (3) 工員月給制度實施ノ體驗 (福島松男述)
- (4) 産報ノ理念ト實踐 (暉峻義等述)
- (5) 産報青年隊ト大政翼賛 (粟原美能留述)
- (6) 第一回協力會議々事録拔萃 (大政翼賛會編)
- (7) 日本精神ト其ノ實踐 (太田悌藏述)
- (8) 産報運動ノ三大重點 (南 岩男述)
- (9) 結核豫防ト療養陳 (健康保險課編)
- (10) 女子ノ勞務指導 (桐原葆見述)
- (11) 經營ノ新動向 (根上耕一述)
- (12) 勞務管理ト貯蓄問題 (工場課編)
- (13) 戰時下ノ家庭經濟 (氏家壽子述)

14 産報青年隊ノ指導鍊成

産報青年隊ニ關シテハ隊幹部並ニ中堅幹部ノ養成、殊ニ幕營鍊成ニ重點ヲ置キ、之ガ鍊成會ヲ開催シ、又産報青年隊ノ組織ヲ強化推進シ、指導ノ適確ヲ期スル爲、副隊長級ヲ集メ移動常會ヲ開催シ、現地ニ於ケル産報青年隊ノ運営狀況ニ付懇談シタリ。其ノ概況左ノ如シ。

1、産報青年隊指導者幕營鍊成會開催

臨戰態勢下ニ於ケル皇國ガ生産勞働力ノ中核タル産報青年隊ニ要請スル所極メテ重ク之ガ指導ノ任ニ在ル隊長ノ責務タルヤ亦實ニ重且大ナリト謂ハザルベカラズ、本會ハ管下産報青年隊長ノ短期鍊成會ヲ開催シ産報青年隊指導者ノ養成ニ努メタリ。

(イ) 第一回産報青年隊指導者鍊成會

- (1) 期日 昭和十六年九月十八日—二十日 二泊三日
- (2) 場所 玉川讀賣飛行場
- (3) 参加資格及参加人員 産報青年隊長一七〇名
- (4) 鍊成内容 青年隊ノ運営、指揮法、行軍、夜間訓練、燃火ノ集、閱兵分列式、行、其ノ他

(ロ) 第二回産報青年隊指導者幕營鍊成

- (1) 期日 昭和十六年十月八日—十日 二泊三日
- (2) 場所 北多摩郡多摩村是政 鍛鍊馬場跡
- (3) 参加資格及参加人員 産報青年隊長二七〇名
- (4) 鍊成内容第一回ト同ジ

2、女子産報青年隊中堅幹部指導鍊成會開催

近時女子勞務者ニシテ産業界ノ進出多ク女子産報青年隊員ノ指導鍊成ハ刻下ノ要務ナリ。仍テ本會ハ左ノ通り女子青年隊中堅幹部ノ指導鍊成會ヲ開催セリ。

(イ) 期日 昭和十六年十二月八日—十日 二泊三日

- (ロ) 場所 北多摩郡小金井町日本青年館分館浴恩館
- (ハ) 参加資格及参加人員 産報青年隊女子副隊長 七〇名
- (ニ) 錬成内容 女子青年隊ノ運営、戦時下ノ家庭經濟、女子勞務者ノ指導、戦時食糧問題、救急法及看護法、國民禮法、運動競技指導、歌指導、體操、教練、行、其ノ他

3、青年隊錬成手帳制定頒布

從來東京府管下ニ於ケル青少年指導ニ關シテハ東京産業報國會、東京府青少年團、東京府青年學校等何レモ夫々特色アル別個ノ資料ニヨリ指導シ來レル爲、指導上齟齬ヲ來ス虞尠ナカラズ。仍テ當事者協議ノ結果新ニ青年隊錬成手帳ヲ制定シ指導ノ一元化ヲ期スルコト、ナレリ。
本會ハ右錬成手帳ヲ一ツニハ産報青年隊指導者ノ資料ニ、二ツニハ隊員ノ修養書兼隊員證明書トシテ各青年隊員ニ實費頒布シツ、アリ。

4、大東亞戰爭完遂祈願並ニ皇軍感謝祭實施

今次戰爭ノ特質ニ鑑ミ、祝賀行事トシテ共ニ聲援ノ下ニ生ヲ享クル各界代表者ヲ網羅シ嚴肅ナル感謝祭ヲ施行シテ天佑神助ノ祈念、靖國ノ英靈並ニ皇軍將士ニ感謝ノ誠ヲ效シ終局ノ勝利ヲ得ルマデ斷ジテ屈セザルノ決意ヲ神明ニ誓ヒ奉ル爲東京府、警視廳、大政翼贊會、大政翼贊會東京府、市支部、興亞同盟共同主催ノ下ニ大東亞戰爭完遂祈願並ニ皇軍感謝祭ヲ施行セラレタルヲ以テ本會ハ之ニ協力シ、産報青年隊ヲ動員参加セシメタリ。

- (イ) 日時 二月十八日午後一時二〇分
- (ロ) 式場並集合場所 日比谷公園廣場

(ハ) 参加人員 學生並各種團體約三萬四千人、此ノ中産報青年隊男九千七十二人、女一千五百十二人、計一萬五百八十四人

5、産報青年隊移動常會開催

産業青年隊ノ組織ヲ強化推進シ、指導ノ適確ヲ期スルト共ニ、決戦下生産力増強ノ根基タルベキ職場青少年ヲシテ皇國興廢ノ關頭ニ於ケル重大任務ヲ知悉セシメ、全生産青少年ノ躍起ヲ促シ、増産報國ニ邁進セシムルタメ、本會ハ産報青年副隊長移動常會ヲ開催セリ。其ノ狀況左表ノ如シ。

第一表 男女青年隊移動常會開催一覽表

開催日	開催地	人員	開催地	人員
二月十二日(木)	寺島	三二	品川	三〇
同 十三日(金)	王子	三七	品川	二九
同 十六日(月)	上野	二九	品川	三一
同 十七日(火)	千住	三二	品川	五〇
同 十八日(水)	板橋	三五	品川	三三
同 十九日(木)	板橋	三四	品川	二五
同 二十日(金)	砂町	四六	品川	三三
同 二十三日(月)	淀橋	二九	品川	三〇
同 二十四日(火)	池袋	二一	品川	三〇
同 二十五日(水)	蒲田	三九	品川	一二三
同 二十六日(木)	同	三六	品川	四七
同 二十七日(金)	同	三六	品川	四七
三月 三日(火)	同	三五	品川	一九
同 四日(水)	同	三五	品川	四七

同 五日(木)
同 六日(金)
同 十日(火)

同 葛飾 三五
二七

八王子 一八
三田 三四
三田 三四

第二表

女子青年隊移動常會開催一覽表

開催日	第一班		第二班	
	開催地	人員	開催地	人員
三月十日(火)	大森	三四	開催地	
同 十一日(水)	大崎	三〇	上野	二三
同 十二日(木)	王子	三一	太平	三〇

6、少年産業戦士壯行大會開催

今春學窓ヲ出テ新ニ産業戦線ニ活躍セントスル都下約三萬ノ少年産業戦士ニ對シ、其ノ首途ヲ祝福スルト共ニ、之ヲ鼓舞激勵シ、大東亞戰爭下一層産業報國ノ決意ヲ鞏固ナラシムル爲、本會ハ厚生省、文部省、大日本産報ノ後援ヲ得、東京府、東京市ト共同主催ノ下ニ少年産業戦士壯行大會ヲ開催セリ。

(イ) 日時 昭和十七年三月十九日午後一時

(ロ) 場所 日比谷公園廣場

(ハ) 参加人員 約三萬人

7、産報青年隊指導運營協議練成會開催

産報青年隊ノ組織ヲ整備強化シ、事業ノ促進ヲ圖ル爲支部青年隊係職員ノ參集ヲ覓メ、産報青年隊指導運營協議練成會ヲ開催ス。

(イ) 日時 昭和十七年五月二十九日—三十一日 二泊三日

(ロ) 場所 日本青年館分館清溪寮(山梨縣南都留郡中野村山中湖畔)

(ハ) 参加人員 管下支部青年隊係職員一名宛

(ニ) 練成協議内容

(1) 講話 勤勞青少年ノ教育、東大助教海後宗臣

(2) 協議 産報青年隊指導運營ニ關スル件、少年産業戦士補導週間實施ニ關スル件、本部支部連絡強化ニ關スル件、本年度本支部青年隊事業計畫ニ關スル件、其ノ他

(3) 體操、行軍

8、少年産業戦士慰樂厚生大會開催

本會ハ少年産業戦士補導週間中、少年産業選士慰樂厚生大會ヲ開催ス。要旨左ノ如シ。

- 第一回 昭和十七年六月十五日午後一時 於日比谷公會堂 参加者三、〇〇〇名
- 第二回 昭和十七年六月十七日午後六時半 於日本青年館 参加者二、五〇〇名
- 第三回 昭和十七年六月十八日午後六時半 於日本青年館 参加者二、〇〇〇名
- 第四回 昭和十七年六月十九日午後六時半 於淺草公會堂 参加者一、二〇〇名

15 紀元節ニ於ケル産業報國會奉祝式舉行

本會ハ紀元二千六百年ノ紀元ノ佳節ヲ期シ、全産業報國會員ヲシテ益々肇國精神ヲ發揚セシムルト共ニ、決戰下全産業人總蹶起、大東亞戰爭完遂ノ決意ヲ結集セシムル爲、紀元節ニ於ケル産業報國會奉祝式ヲ舉行セリ。而シテ本奉祝式ニ於テハ聖戰完遂職分奉公ニ關スル決議ヲナセリ。決議例文左ノ如シ。

決議 (例文)

大御稜威ノ下皇軍ノ威武大東亞ヲ掩フ仰イテ肇國ノ大理想ヲ思ヒ感激勇奮ニ堪エズ
吾等皇國産業人ハ只管ニ 大御心ヲ奉體シ、一心奉公、鐵石熱火ノ一丸トナリ、任ラ盡シ分ニ勵ミ、聖職完遂途上
アラユル艱難ヲ突破シ、以テ皇國産業ノ本來使命ヲ完ウセムコトヲ期ス

昭和十七年二月二十一日

〇〇 産業報國會

16 建國祭街頭行進參加

本會ハ肇國精神ヲ昂揚シ、決戦時下戰域奉公以テ大東亞戰爭完遂ヲ期スル爲、建國祭本部主催ニ係ル昭和十七年二月十一日紀元節當日舉行ノ建國祭式典並ニ街頭行進ニ參加セリ。

參加人員 合計 約三萬五千名。

17 統後奉公強化運動實施

政府ニ於テハ昭和十六年十月三日ヨリ同十月七日ニ至ル五日間、全國的ニ統後奉公強化運動ヲ展開サレタルヲ以テ本會ハ之ニ協力シ、管下全産業報國會ヲシテ之ヲ實施セシメタリ。

18 決戦下ニ於ケル産業報國會ノ非常對策

本會ハ大日本産業報國會ヨリノ通牒ノ次第モアリ「決戦時下ニ於ケル産業報國會ノ非常對策要綱」ヲ決定シ、決戦時下ニ於ケル産業報國會ノ非常對策ニ付キ萬遺漏ナキヲ期スル爲メ、昭和十六年十二月各支部長ヲ經テ各單位産業報國會長宛通牒ヲ發シタリ。

決戦下ニ於ケル産業報國會非常對策要綱

第一 物的對策

事業場及家庭ノ物的對策ニ付テハ、産業報國會ノ立場ヨリ關係官廳及團體ト連絡シテ應急措置ヲ講ズルコト、シ、産業報國會ソレ自ラノ活動トシテハ人的對策ニ重點ヲ置クコト

第二 人的對策

「根本方針」殉國ノ意氣ヲ以テ職場ヲ死守スルコト、特ニ會長ハ最高指揮者トシテ緊急事態ニ直面シタ際ハ必ズ出動自ラ難ニ赴クノ概ヲ以テ各指揮者ヲ統率シ、會活動ニ挺身スルコト

一、愛國精神ノ昂揚ニ對スル對策

イ、國內非常化シタル場合ハ單位産業報國會ハ即時緊急總會ヲ開キ、宣誓其ノ他ノ方法ニヨツテ團結ノ強化ト士氣ノ昂揚ヲ計リ、殉國ノ意氣ヲ固メ、部隊組織ノ活用ニ依リ嚴然タル職場秩序ノ確立ヲ圖リ、飽ク迄職場死守ノ實ヲ舉ゲルコト

ロ、就業前後並ニ休憩時間ヲ利用シ激勵演說ヲ爲スコト、此ノ場合ハ事業主、職員、勞務者、其ノ他關係官廳、

道府縣産業報國會、同支部ノ職員ヲシテ爲サシム(マイク、メガフォン)

ハ、愛國精神昂揚ニ關スルスローガンヲ立看板、ポスター等ニヨリテ各所ニ揭示ス

ニ、事業場出入ノ際ニハ必ズオ互ニ激勵及感謝ノ辭ヲ交スコト

ホ、家庭ヲ訪問シ出勤ノ勸誘ヲナス(勸誘隊)

二、空襲時ノ待避計畫

イ、空襲時ニ於テ待避ノ場合ハ必ズ職場ノ殘留要員ヲ定メ、其ノ殘留場所ヲ豫メ研究シ、選定シ置クコト
ロ、待避者ノ秩序アル誘導ニツキ計畫ヲ樹立シ置クコト、待避場所ハ成可ク事業場構内ノ防空壕、安全地帯ヲ可
トスルモ、然ラザル際ニ於テモ近距離ノ地ヲ選ブコト

ハ、空襲時ニ於ケル會員ノ待避方法及待避場所等ニツイテハ、豫メ當該官廳ト連絡シ置クコト

三、通勤ノ混亂ニ對スル對策

イ、愛國精神ノ昂揚（前記）

ロ、集團通勤

ハ、皆勤競争ノ實施（職場毎）

ニ、遠距離通勤者ヲ工場又ハ附近民家ニ集團宿泊セシムルコトヲ豫想シ、同計畫ヲ樹テルコト

ホ、女子ハ成可ク宿舍ニ收容スルコト

四、勞働意思喪失並ニ歸郷者ニ對スル對策

イ、愛國精神ノ昂揚（前記）

ロ、勞働者ヲシテ安全感ヲ抱カシムル様ナ施設ノ充實ヲ計ルコト

（一）防空法ニ基ク施設ノ充實—防空壕、消火栓等ヲ從來ノ演習的觀念ヲ離レ實際ノ作業ニ役立つヨウニ配置ス

ルコト

（二）勞働者ノ家庭ノ保護ノ徹底—地域ノ警防團ト充分ナル連絡ヲ保持スルコト

ハ、故郷ヨリ呼戻ヲナサシメザルヤウ、豫メ家庭ト連絡スルコト

五、災害増加ニ對スル對策

イ、事業場内ヲ整頓シ、作業ノ安全化ヲ計ルコト

ロ、安全規則ノ嚴守

ハ、安全管理者、安全委員ノ最高度ノ活動

ニ、職場内ノ危険物及可燃性物件、藥品類ハ整理シ、安全ナル倉庫等へ收藏スルコト

ホ、彩光換氣ヲ充分ナラシムルコト

ヘ、夜間通路、危険作業場ニハ適當ノ照明ヲ爲スコト

ト、事業場内通路ニハ石灰其ノ他ニ依リ、通路ヲ表示スルコト

チ、高所作業ニハ命綱ヲ使用スルコト

リ、停電ニヨリ作業ノ危険化スル場所ニ於ケル應急處置

ヌ、懐中電燈ノ適當箇數ヲ準備スルコト

六、疾病 對策

イ、換氣装置ヲ完備セシムルコト

ロ、高熱作業場ニ食鹽氷水ヲ多量ニ用意スルコト、特ニビタミンBノ補給ヲ計ルコト

ハ、睡眠ヲ充分採ラシムル方途ヲ講ズルコト

ニ、健康診断ヲ時々實施シ、疾病ノ早期發見ニ努ムルコト

七、事業場治安ノ混亂ニ對スル對策

イ、事業場ノ特設防護團ヲ活用スルコト

但シ事業場ノ防護團ニハ成可ク直接生産ニ關係ナキ人員ヲ以テ充テ、生産力ノ低下ヲ出來ルダケ避ケルコト

(無論特設防護團ノ迅速ナル活動ヲ阻害セザルヤウニ適當ナル措置ヲナスベキハ論ヲ俟タズ)
ロ、事業場特設防護團ノ警備班ノ組織ヲ擴大強化シテ、事業場内治安ノ責任ヲ持タシメ、警察トノ連絡ニ當ラシムルコト。特設防護團ノ組織ナキトコロニ於テハ右ニ準ジテ考慮スルモノトス(窃盜暴力ノ防止、防諜、謀略ノ防止)

八、思想防護對策

ハ、職場ノ組織ヲ可及的ニ部隊組織トナシ、緊急事態ニ對スル動員對策ヲ樹立スルコト
イ、事業場特設防護團、警備班ハ流言蜚語、不逞分子ノ警察取締ニ協力スルコト
ロ、出入者ノ警戒ヲ嚴ニスルコト
ハ、事業場重要部門ノ警戒(特設防護團ノ警戒班ヲ之ニ當テルコト)
ニ、重要機密書類ノ搬出處置ヲ遺憾ナクスルコト
ホ、責任者ハ思想統一、輿論統一ヲ爲スコト
ハ、單位産報會其ノ他ノ機關紙ヲ動員シ、思想ノ統一ヲ計ルコト

九、餘暇善用對策(非空襲時)

イ、慰安娛樂ハ總テ勤勞者ノ士氣昂揚ヲ目的トスルコト
(一) 軍歌、其ノ他勇壯ナルレコードヲ演奏スルコト
(二) 詩吟、和歌ノ朗誦、紙芝居ノ利用
ロ、事業場外ニ在ツテハ家庭及住居生活ヲ中心ニ慰安娛樂ヲ獎勵スルコト
但シ退嬰的ナマージャン、トランプ、歡樂街ノ出入等ハ禁止スルコト

ハ、體操ヲ普及シテ體位ノ向上ヲ圖ルト共ニ、簡易ナル體育運動、例ヘバ角力等ヲ獎勵シテ眞摯敢闘ノ精神ヲ昂揚セシムルコト

ニ、單位産業報國會ニ於テ訓練ヲ行フ場合ニハ、激勵ヲ主タル目的トシ、休日ヲ利用シ、一日講習ヲ行ヒ、短時間ノ激勵演說ヲ織込ムコト

十、家庭ニ對スル對策

主タル保護ハ警防團、隣組等ニ一任シ、産業報國會トシテハ職場ト家庭トノ連絡班ヲ設ケテ之ニ協力スルコト、但シ自宅ニ在ル際ハ地域ノ各活動ニ協力スルコト

十一、其ノ他

イ、犯罪ノ増加ニ對シテハ工場ノ嚴正ナル規律ニ依リ之ヲ防止スルコト
ロ、青年隊ノ防衛的活動

19 敵機空襲ニ依ル殉職會員弔慰

本會ハ大東亞戰爭勃發スルヤ、直チニ「決戰時下ニ於ケル産業報國會非常對策要綱」ヲ決定シ、戰爭遂行上必要物資ノ増産ト空襲時ニ於ケル職場死守ノ心構ヲ全會員ニ要請シタリシガ、昭和十七年四月十八日偶々敵機帝都ヲ空襲スルヤ、全産業人ハ何等動ズルコトナク、克ク職場ヲ死守シ、其ノ本分ヲ完フシタリ。而シテ本會ハ不幸本空襲ニ依ル殉職産業人ニ對シテハ弔慰規程ニ關セズ特別ノ詮議ニヨリ弔慰金ヲ、又重傷者ニハ見舞金ヲ夫々贈呈シ、謹ンデ哀悼ト慰藉ノ意ヲ表セリ。

20 大東亞戰爭完遂産業報國大講演會開催

大東亞戰爭開始以來赫々タル皇軍ノ大戦果ニ呼應シ、經濟戰生産戰ニ於テ必勝ヲ期スルハ産業人ノ絶對的使命ナル

ニ鑑ミ、産業人ノ決意ヲ益々鞏固ニシ、之ガ使命完遂ヲ期スル爲、本會ハ大日本産業報國會、神奈川縣産業報國會ト共同主催ニヨリ京濱地方ノ産業報國會長ノ參集ヲ乞ヒ、大東亞戰爭完遂産業報國大講演會ヲ開催セリ。
其ノ狀況左ノ如シ。

(イ) 日時 五月十五日午後一時

(ロ) 場所 日比谷公會堂

(ハ) 參會者 約三千五百名

(ニ) 講演

(1) 戦はざる者に勝利なし

(2) 高度國防國家建設の産業報國と精神の昂揚

(3) 率先躬行の信念

(4) 大東亞戰爭と産業人の責務

情報局次長 奥村喜和男閣下

商工大臣 岸信介閣下

厚生大臣 小泉親彦閣下

大日本産業報國會長 平生夙三郎閣下

右講演會終了後、引續キ京濱地方産業報國會長大會ニ移リ、聖戰完遂ノ決議ヲ可決セリ。

決議

客年十二月八日 畏クモ宣戰ノ大詔ヲ拜シ、未ダ半歲ナラズシテ東亞ノ米英據點、將ニ悉ク壊滅ニ歸セムトス、其ノ戰果ノ偉大ナル、其ノ武威ノ赫々タル寔ニ古今未曾有ノコト、謂フベシ。緒戰既ニ敵ノ心膽ヲ奪ヒ、必勝ノ信念既ニ固シ。何ゾ戰期ノ長短ヲ問ハムヤ。今ヤ戰局ノ急迫ニツレ、生産力増強ノ要益々重キヲ加フ。産業人ノ使命今日ヨリ大ナルハナシ。我等ハ必成ノ信念ヲ堅持シ、率先躬行、産業報國ノ眞精神ニ徹シ、創意ヲ旺ニシ、

能力ヲ傾ケ、相携ヘテ生産力増強ノ實ヲ擧ゲ以テ聖業ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ期ス。

昭和十七年五月十五日

東京産業報國會神奈川縣産業報國會管下

産業報國會長大會

21 新嘉坡陷落戰捷祝賀行事實施

勇武ナル皇軍ノ作戰一途進捗ヲ見、東亞ノ米英最終據點タル新嘉坡陷落ヲ期シ、本會ハ管下全産業報國會ヲシテ戰捷祝賀式ヲ舉行セシメタリ。尙當日東京府、警視廳、東京市、大政翼贊會、同東京府、市支部、興亞同盟共同主催ニ依リ「大東亞戰爭完遂祈願並皇軍感謝祭」ヲ日比谷公園廣場ニ於テ舉行セラレタルヲ以テ、本會ハ産報青年隊約三千名ヲ動員、之ニ參加セシメタリ。

尙各單位産業報國會ニ於テモ夫々職場ノ實情ニ即應シタル祝賀行事ヲ計畫實施スル様通牒セリ。

四、産報道場ノ建設

本會ハ時局下産業人鍊成教化ノ緊要ナルニ鑑ミ、昭和十五年九月役員會ヲ開催、産報道場建設ノ議ヲ附議シタル處管下産報會員ノ醵金二十五萬圓ヲ以テ之ヲ建設スルコト、ナレリ。仍テ本會ハ澁谷區神山町十一番地所在敷地一千二百六十九坪、建物三百三十一坪ヲ水野子爵家ヨリ買收シ、昭和十六年八月之ガ修築工事ニ着手セリ。而シテ其ノ設計監督ヲ警視廳營繕係ニ、工事ヲ株式会社池田組ニ委託シ、爾來關係者一同ノ協力ニ依リ、戰時下資材ノ入手難、勞力ノ不足等幾多ノ困難ヲ伴ヒタルモ、昭和十七年七月七日漸ク之ガ竣功ヲ見タルヲ以テ、本會ハ本部役員並ニ各支部長

ノ參列ノ下ニ落成式ヲ舉行セリ。

本道場ハ本館木造二階建一棟、附屬建物住宅四棟、倉庫一棟ヨリ成リ總延坪四百四十五坪ニシテ、神殿講堂等講習ニ必要ナル設備ハ勿論宿泊室十三室アリテ、常時九十人ヲ收容スルコトヲ得。

五、生産力ノ擴充並ニ國策遂行ヘノ協力

1 第一期生産増強運動ノ實施

戰時下生産増強ノ重要性ニ鑑ミ、大日本産業報國會ニ於テハ、昭和十七年一月ヨリ三月迄ノ三ヶ月間ヲ第一期生産増強運動實施期間トシテ

(イ) 皆勤實行運動

(ロ) 機械實働率増進運動

(ハ) 職場規律確立運動

ノ三大運動ヲ全國的ニ展開セラル、コト、ナリタルヲ以テ、本會ハ之ヲ全管下ニ實施スルト共ニ屢々講演會、講習會懇談會ヲ開催シ以テ本運動ノ完遂ヲ期シタリ。

2 技能競練大會開催

高度國防國家ヲ建設シ、東亞共榮圈ヲ確立スル爲ニハ我が國産業ノ生産性ヲ極度ニ高度化シ、能率ノ急速ナル増進ヲ圖ルヲ以テ最大ノ急務トス。而モ現下勞働力ノ不足ハ生産技術ノ速カナル向上ト技術者ノ自覺ニヨリ補フノ外ナシ。此ノ國家的要請ニ即應センガ爲大日本産業報國會ニ於テハ全國的ニ技能競練大會ヲ開催セラル、コト、ナリタル

ヲ以テ、本會ハ昭和十六年十一月東京技能競練大會ヲ中島飛行機製作所其ノ他ニ於テ開催ス。

(イ) 種目 旋盤、仕上、寫圖、鑄物、ミシン、タイプライター

(ロ) 參加選手 各種目 合計六二三名

尙本會ハ引續キ開催セラレタル「技能競練關東地域大會」並ニ「技能競練中央大會」ニ夫々選手ヲ派遣、參加セシメタリ。

3 第四回東京投炭競技會開催

技能競練ノ一部門トシテ昭和十六年十月二十六日東京帝國大學構内ニ於テ開催ス。 出場選手五五名。

4 第十七回汽罐士講習會開催

本講習會ハ厚生省令汽罐士取締令ニ基クモノニシテ、汽罐士ニ必要ナル知識技能ヲ授ケ、併テ徳性ヲ涵養シ、優秀ナル汽罐士ヲ養成スルヲ目的トス。而シテ修了試験ニ合格シタル者ニハ無試験ニテ一級又ハ二級汽罐士ノ免許ヲ授與ス。

本會ハ昭和十六年五月十一日ヨリ同年八月十二日ニ至ル間、芝浦高等工學校ニ於テ開催ス。講習終了生一級一五二名、二級二五〇名。

5 第十四回「アセチレン」熔接工講習會

本講習會ハ警視廳令「アセチレン」熔接取締規則ニ基クモノニシテ熔接士ニ必要ナル知識技能ヲ授ケ、併テ徳性ヲ涵養シ優秀ナル熔接士ヲ養成スルヲ目的トス。而シテ修了試験ニ合格シタル者ニハ無試験ニテ熔接士ノ免許ヲ授與ス。

本會ハ昭和十六年十一月十八日ヨリ同年十二月五日ニ至ル間、八王子鐵工機械工業組合事務所ニ於テ之ヲ開催ス。

講習終了生一五二名。

6 産業報國會ノ總選舉對策

昭和十七年四月三十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ當リ、本會ハ政府ノ方針ヲ體シ、「大東亞戰爭完遂翼贊選舉貫徹運動」ヲ實施シ、各種印刷物ノ配布講演會ノ開催等ニ依リ産業人ノ時局認識ト翼贊議會確立ニ對スル政治的意欲ノ昂揚ヲ圖リタリ。

7 東京市會議員選舉對策翼贊選舉貫徹運動實施

六月十五日施行ノ東京市會議員選舉ニ際シ、現下直面セル大東亞戰爭ノ完遂ヲ目標トシ、國家總力發揮ノ基底タルベキ地方自治ノ刷新強化ヲ期シ、本會ハ翼贊選舉貫徹運動ヲ實施スルト共ニ、左ノ通り翼贊選舉貫徹講演會ヲ開催セリ。

翼贊選舉大講演會開催一覽表

會場	日 時	參加數
兩國公會堂	五月三十日午後一時	一、三〇〇名
淀橋公會堂	六月二日午後六時三〇分	七〇〇名
日本青年館	六月三日午後六時三〇分	二、〇〇〇名
宇都宮會館	六月四日午後六時三〇分	八〇〇名
豊島公會堂	六月五日午後六時三〇分	一、〇〇〇名

8 貯蓄ノ獎勵

戰時下貯蓄獎勵ノ重要性ニ鑑ミ、本會ハ工場事業場ニ對シ、一面國民貯蓄組合ノ結成ヲ推進シ、貯蓄ノ增強ヲ圖ルト共ニ、他面戰時債券ノ賣出ノ都度、之ヲ購入運動ヲ實施セリ。

9 貯蓄報國ト厚生演技ノ會開催

大東亞戰爭下貯蓄增強ノ重要性ニ鑑ミ、本會ハ警視廳並ニ東京府ト共同主催ノ下ニ、勞務者ヲ對象トシ、「貯蓄報國ト厚生演技ノ會」ヲ開催シ、産報會員ノ慰安ヲ兼ネ、本年度二百三十億貯蓄目標額達成ヲ期シタルガ、其ノ狀況左ノ如シ。

貯蓄報國ト厚生演技ノ會

會場	日 時	參加人員
兩國公會堂	六月十四日午後一時	一、〇〇〇名
青山會館	六月二十一日午後一時	一、五〇〇名
豊島公會堂	六月二十一日午後一時	八〇〇名
尙大日本産業報國會ト共同主催ニヨリ本會ハ「産業人貯蓄ノ夕」ヲ開催ス。		
浅草公會堂	六月二十四日午後六時三〇分	一、七〇〇名

10 ポスター「二百三十億貯蓄へ」作製配布

昭和十七年六月貯蓄強調週間實施ニ際シ、本會ハポスター「二百三十億貯蓄完遂へ」ヲ四萬枚印刷、全管下産業報國會ニ配布セリ。

11 第十四回全國安全週間實施

本會ハ「總力戰だ努めよ安全」ノ標語ノ下ニ、昭和十六年六月十日ヨリ同月末日迄ヲ準備期間トシ、同年七月一日ヨリ同七日迄ヲ實施期間トシテ實施ス。參加工場事業場五六、五八一、同人員約七五〇、〇〇〇人ニシテ、其ノ概況左ノ如シ。

(イ) 宣傳印刷物ノ配布

ポスター

八萬三千部

注意票(五枚一組)

八萬二千組

優良工場彰示用紙

千三百五十枚

従業員心得

六萬四千五百部

安全週間ニ關スルラジオ放送番組

十二萬部

安全マーク(有料)

六十七萬千八百一十一個

安全頌カード(有料)

四十五萬七千九十八枚

(ロ) 宣傳映畫班ノ編成 四班ヲ編成安全映畫會ヲ開催ス。

(ハ) 安全祈願奉賽式執行 安全週間第一日安全報國宣誓日ヲ期シ、明治神宮大前ニ於テ警視總監以下官廳關係者

ヲ初メ、參加工場事業場代表二千名參列、極メテ嚴肅裡ニ安全祈願奉賽式ヲ執行、其ノ實況ヲA.K.ヨリ中繼放送

シ各工場事業場ニ於テ行フベキ安全祈願式ヲ之ニ合セ行ハシム。

(ニ) 講演及映畫會開催 回数七四回、聽講者：約四萬五千七百人

(ホ) 安全標語並ニポスター懸賞募集 各工場事業場ニ對シ懸賞募集、入選者ニ賞金ヲ授與ス。

六、福利厚生施設

1 勞務者用必需品ノ配給

本期中配給シタルモノ凡ソ左ノ如シ。

- (イ) 特免作業衣 三〇六、二九〇點
- (ロ) 衛生綿 三一、二〇〇包(五〇瓦入)
- (ハ) 乾パン 六五〇〇、〇〇〇包(一包十錢)
- (ニ) 乾麵 二五、〇〇〇箱(一箱二四束入)
- (ホ) 正月餅米 一、〇八七俵
- (ヘ) ゴムマリ 八五〇ダース
- (ト) 鯛 一、九〇〇箱(一箱五貫目入)
- (チ) 作業靴 四一五、〇〇〇足
- (リ) 地下足袋 三一、二〇〇足
- (ヌ) 印袴纏 一三、〇〇〇枚

2 「海ノ健康村」開設

昭和十六年七月一日ヨリ同年八月末日ニ至ル間、千葉縣谷津海岸ニ開設 入場者 累計二二〇、六一六名

3 産業體育指導者講習會開催

昭和十七年四月十一日ヨリ同年六月二十二日ニ至ル期間、青梅町府立第九高等女學校外九ヶ所ニ於テ開催ス。受講者累計二、〇五六名。

4 第十一回産業體育大會開催

本會ハ昭和十六年度下半年期ノ期間中ニ於テ産業人ノ心身ノ鍛鍊ノ爲各種産業體育大會ヲ開催セリ。

- (イ) 陸上競技大會 九月七日、明治神宮競技場ニ於テ開催ス。出場選手 計四、二八三名
- (ロ) 相撲大會 五月十八日靖國神社相撲場ニ於テ開催ス。出場選手 一四〇名
- (ハ) 武道大會
 - (1) 柔剣道大會 九月十四日、警視廳得剛館ニ於テ開催ス。出場選手 柔道一〇一名、剣道一二二名
 - (2) 弓道大會 九月十四日、築地本願寺弓道場ニ於テ開催ス。出場選手 九二名。
- (ニ) 軟式野球大會 十月十二日、帝國生命運動場ニ於テ開催ス。出場選手 一九一名。
- (ホ) 軟式庭球大會 十月十二日、帝國生命運動場ニ於テ開催ス。出場選手 男四六名、女二六名。
- (ヘ) 卓球大會 十一月十六日、國民體育館ニ於テ開催ス。出場選手 男一三九名、女一二五名。
- (ト) 鍛錬總走大會 十一月二十三日開催ス。區間、明治神宮外苑ブルー前ヨリ青梅町ニ至ル。出場選手三五二名

5 體育並榮養食巡回指導

本會ハ事務局ニ專任ノ體育技手六名、榮養技手四名ヲ置キ、各單位産報ヲ巡回指導ニ當ラシム。

- (イ) 體育巡回指導工場事業場 九〇三箇所
- (ロ) 榮養食巡回指導工場數延 四一八工場

6 修養慰安娛樂

本會ハ勞務者ノ修養、慰安、娛樂等ニ就テモ力ヲ致シツ、アル所ニシテ、本會ガ本期間中ニ實施シタルモノ凡ソ左ノ如シ。

- (イ) 音樂巡回指導 三〇回 參會者 計約二〇、四二〇名
- (ロ) 音樂競演吹奏會 三回 參會者 計 二、三五〇名
- (ハ) 音樂合唱會 三回 參會者 計 二、一〇四名
- (ニ) 移動演劇大會 三回 參會者 計 二、五〇〇名
- (ホ) 増産激勵問演藝大會 三八回 參會者 計 二八、三六〇名
- (ヘ) 紙芝居講習會 五回 參會者 計 七二五名
- (ト) 其他 紙芝居版九種 計七七四枚 歌詞三〇、〇〇〇部配布

七、東京産業報國會ノ事業計畫

大東亞戰爭勃發ニ依リ産業報國運動ノ使命愈々重大ナルニ鑑ミ、昭和十七年度事業計畫ニ當リ現下最モ緊要トスル生産力増強ノ國家的要請ニ即應スベク、産業報國會ノ組織強化擴充、産業報國精神ノ昂揚、職場秩序ノ確立、技能ノ向上、勤勞力ノ培養強化等重點的ニ本運動ヲ展開セムトス。而シテ事務局移轉ヲ期トシ、本年度事務局活動ノ二大目標ヲ

- 一、事務局ノ整備組織化
- 二、支部トノ緊密ナル連絡及活動ニ置ク

今各部活動計畫ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ。

第一 調査相談所ノ開設（新設）

産報基本調査、技術、建築、設備相談等

第二 總務部

1 會議

(1) 總會 一回

(2) 役員會 二〇回以上

(3) 支部長會議 三回以上

(4) 支部主任會議 五回以上

(5) 大日本産報連絡會議 四回以上

2、勤勞協議會開催

3、國策協力ニ關スル事項

4、産報會ノ組織整備ノ促進

5、表彰並慰靈祭ノ執行

6、會館建設等

第三 事業部

1、保健施設

「海ノ健康村」

千葉縣谷津海岸

海の家

神奈川縣片瀬海岸

2、産業體育指導

産業體育指導者講習會

産業體育巡回指導

産業體育實演會

産業體育各種大會「陸上、武道（劍、柔、弓、銃劍道）相撲、野球、庭球、卓球、繼走」

各種體育大會參加

3、營養食指導

營養改善巡回指導

營養調理者講習會

營養食研究會

講習會

4、勤勞文化指導

勤勞者厚生大會

演藝映畫觀賞大會

産業戰士慰安演藝、映畫班派遣

産業音樂指導者講習會

産業音樂競演會

- 5、 紙芝居演出技術講習會
產業衛生指導
產業勞務者ノ健康診斷
保健指導員講習會
- 6、 講演會
勞務者用必需品配給
特免作業衣其ノ他
- 7、 安全運動
戰時產業安全週間實施
安全委員會
講演講習會
- 8、 生産力増強運動
機械實働率増進運動
研究發表講演會
技能競練大會
- 9、 技術講習
汽罐士講習會（一、二級）
「アセチレン」熔接士講習會

- 工場事務擔當者講習會
- 10、 熱管理指導
焚燒從業員講習會

第四 鍊成部

- 1、 指導者鍊成會 五回
本部理事、幹事、評議員及五百人以上ヲ有スル單位產報會長ノ一泊懇談會ヲ開催ス
- 2、 神祇講習會ノ開催 內務省ノ依頼ニ依リ來ル八月一日單位產報指導者鍊成ノ豫定
- 3、 工場、事業場ニ於ケル指揮者ノ鍊成會 六〇回
事業主外課係長、技師、技手、役付工、基礎隊（五人組）指揮者ノ鍊成講習會ヲ二泊三日ノ豫定
- 4、 鷄頂山鍊成一回二百人青年隊員ノ鍊成 約五回
- 5、 鍊成會參加者ノ連絡懇談會開催
鍊成會ニ參加シタル者ノ其ノ後ニ於ケル實踐狀況ヲ發表シ、相互啓發產報運動ノ推進ヲ圖ル
- 6、 講師ノ懇談會ノ開催
時々講師ノ懇談會ヲ開催シ、意見ヲ交換シ、產報運動ノ思想的統一ヲ圖ル
- 7、 規律訓練指導者懇談會ノ開催
職場ノ規律確立ノ徹底ヲ期スル爲メ規律、訓練指導者懇談會ヲ開催
- 8、 講師派遣
支部及單位產業報國會主催ノ講習會、講演會ニ講師派遣ヲ斡旋ス

9、視 察

鍊成ヲ受ケタルモノ、實踐狀況及規律確立運動ノ狀況ヲ視察シ鍊成ノ徹底ヲ期ス

10、歸還軍人會員ノ懇談會ノ開催

歸還軍人會員中退職多キニ鑑ミ其ノ原因ヲ探究スル爲ニ歸還軍人會員ノ懇談會ヲ開催ス

11、産業青年隊ノ指導

- (1) 産業青少年ノ指導ノ適正ヲ期スル爲メ、學識經驗者ヲ以テ産業青少年指導委員會ヲ構成ス
- (2) 産報青年隊ト東京府青少年團ノ緊密ナル連絡調整ヲ圖ル婁アルニ付キ、連絡委員會ヲ構成ス
- (3) 本部ト支部ノ一元的指導ヲ期スル爲メ、支部青年隊主任者會議ヲ時々開催ス
- (4) 支部ノ青年隊指導力ヲ強化スル爲メ各支部ニ指導委員會ヲ設置セシム
- (5) 青年隊指導者鍊成ノ爲メ、隊長隊幹部其ノ他中堅幹部ノ集團鍊成ヲ實施ス
- (6) 其ノ他産報青年隊指導ニ必要ナル事項

第五 組 織 部

本部及ビ支部ノ組織化及ビ單位産報組織指導ヲナス。

第六 普 及 部

- 1、普及係 八十八支部ト緊密ナル連絡ヲ圖リ、産業報國運動ノ普及指導ヲナス
- 2、出版係
 - (1) 機關紙「東京産業報國」 定期十二回、臨時二回
 - (2) 東京産報時報 定期十二回

- (3) 産報ノ栞(全會員配布) 定期十二回
- (4) 東京産報指導資料 定期十二回
- (5) 單行本

(イ) 工場青年報告 一回

(ロ) 職場美談集 一回

(ハ) 職場報告 一回

(ニ) 其ノ他 一回

(6) レコード製作一回一萬五千枚 一回

(7) ポスター製作數種 數回

(8) 展覽會開催

(イ) 綜合展覽會 一回

(ロ) 移動展覽會 二回

五、東京產業報國會ノ豫算及決算

(一) 昭和十六年度歳入歳出決算

歳入

第一款 會費	金九拾參萬九千壹百八拾五圓八拾四錢
第一項 會費	金九拾參萬九千壹百八拾五圓八拾四錢
第一目 會費	金九拾參萬九千壹百八拾五圓八拾四錢
第二款 補助金	金貳拾六萬七千八百五拾八圓拾五錢
第一項 補助金	金貳拾六萬七千八百五拾八圓拾五錢
第一目 大日本產報補助金	金拾六萬七千八百五拾八圓拾五錢
第二目 東京府補助金	金拾萬圓
第三款 寄附金	零
第一項 寄附金	零
第一目 寄附金	零
第四款 繰越金	金參萬七千九百六拾六圓九拾九錢

第一項 繰越金	金參萬七千九百六拾六圓九拾九錢
第一目 繰越金	金參萬七千九百六拾六圓九拾九錢
第五款 雜收入	金拾萬六千九百五拾六圓參拾四錢
第一項 雜收入	金拾萬六千九百五拾六圓參拾四錢
第一目 過年度會費	金壹萬參千八百九拾貳圓八拾五錢
第二目 雜收入	金九萬參千六拾參圓四拾九錢
歳入計	金壹百參拾五萬壹千九百六拾七圓參拾貳錢

歳出

第一款 事務費	金八萬參千四百五拾貳圓拾參錢
第一項 給與	金五萬四千參百七拾貳圓六拾壹錢
第一目 給料	金參萬八千四百參圓六拾壹錢
第二目 賞與	金壹萬五千九百六拾九圓
第二項 雜給	金貳萬參千五百貳拾壹圓參拾六錢
第一目 雜給	金七百五拾四圓五拾錢
第二目 旅費	金壹萬貳百四拾五圓貳拾七錢
第三目 手当當	金七千壹百貳拾壹圓五拾九錢
第四目 職員退職積立金	金五千四百圓
第三項 需用費	金五千五百五拾八圓拾六錢

- 第一目 備品費 金八百拾四圓六拾貳錢
- 第二目 消耗品費 金壹千七百七拾貳圓貳拾九錢
- 第三目 圖書購入費 金壹百四拾貳圓六拾九錢
- 第四目 印刷費 金四百拾壹圓七拾五錢
- 第五目 通信運搬費 金壹千貳百五拾七圓七拾七錢
- 第六目 雜費 金壹千壹百五拾九圓四錢
- 第二款 會議費 金四千壹百貳拾九圓五錢
- 第一款 會議費 金四千壹百貳拾九圓五錢
- 第一目 總會費 金貳千貳百四圓九拾壹錢
- 第二目 役員會費 金壹千五百五拾貳圓參拾四錢
- 第三目 雜費 金參百七拾壹圓八拾錢
- 第三款 事業費 金參拾四萬參百七拾參圓八拾五錢
- 第一項 事業費 金參拾四萬參百七拾參圓八拾五錢
- 第一目 指導費 金貳萬六千八百參拾四圓貳拾七錢
- 第二目 啓發宣傳費 金六萬壹千五百七拾五圓七拾錢
- 第三目 厚生事業費 金拾壹萬六千五百七拾圓五拾六錢
- 第四目 勤勞文化指導獎勵費 金壹百貳拾五圓
- 第五目 表彰並慰靈祭費 金四萬九百拾貳圓九拾九錢

- 第六目 支部事業補助費 金九萬六千六百六拾圓
- 第七目 各種國策協力並調査研究費 金壹千四百七拾圓拾錢
- 第八目 產報道場維持費 金壹千九百參拾七圓六拾八錢
- 第九目 雜費 金貳百八拾七圓五拾五錢
- 第四款 大日本產業報國會費 金四拾參萬九千五百參拾壹圓五拾錢
- 第一款 大日本產業報國會費 金四拾參萬九千五百參拾壹圓五拾錢
- 第五款 豫備費 金五萬圓
- 第一項 豫備費 金五萬圓
- 第一目 豫備費 金五萬圓
- 歲出計 金九拾壹萬七千四百八拾六圓五拾參錢
- 歲入歲出差引剩餘金 金四拾參萬四千四百八拾圓七拾九錢
- 此ノ處分
 - 金四拾萬圓 特別(繰越金)會計
 - 金參萬四千四百八拾圓七拾九錢 本部及事務局建設及會員厚生事業積立金
 - 昭和十七年度會計へ繰越
- 歲入歲出決算說明

昭和十六年度歲入合計八百參拾五萬壹千九百六拾七圓參拾貳錢ニシテ豫算額百四拾壹萬九千六百五拾九圓拾五錢ニ

歲出	合計									
	第一項 豫備費	第五款 豫備費	第一項 大日本產報會費	第四款 大日本產業報國會々費	第九目 雜費	第八目 產報維持費	第七目 各種協查並研究費	第六目 補助費	第五目 表彰並慰靈祭費	第四目 勤勞文化指導獎勵費
九二七、四八六・五五	五〇、〇〇〇・〇〇	五〇、〇〇〇・〇〇	四三九、五二一・五〇	四三九、五二一・五〇	二七・五五	一、九七・六六	一、〇〇・一〇	九〇、六六〇・〇〇	四〇、九三三・九九	三三三・〇〇
一、四二九、六六九・一五	八六、〇〇一・〇〇	八六、〇〇一・〇〇	四三九、五二一・五〇	四三九、五二一・五〇	五、八八六・六五	七、八〇〇・〇〇	五、〇〇〇・〇〇	一〇三、一〇〇・〇〇	三三、七三〇・〇〇	一〇、七三三・〇〇
五〇、〇〇一・〇〇	三六、〇〇一・〇〇	三六、〇〇一・〇〇			五、五九九・一〇	五、八三三・三三	四、〇三六・二〇	一六、四四〇・〇〇	三三、八七〇・〇一	一〇、八五〇・〇〇
	支出×	大日本產業報國會指定補助金五萬圓也道場基金へ振替							一、優良產業報國會並二、從業員表彰費三八、三六六・六六 三、從業員慰靈祭費二、二七三・三三	
									五、安全運動指導費 八、六六六・六六 六、榮養食指導費 六、八〇〇・〇〇 七、勞務者必需品配給費 三、七七五	

第一目 指導費	第二目 宣傳費	第三目 厚業生費
二六、八三四・七七	六、三五五・〇〇	一、六五七・五五
六、八三五・〇〇	一三〇、九三三・〇〇	三、四一七・五〇
三三、〇〇〇・七七	六九、三四三・〇〇	三、八、二九、四四
三、講演會費 一、七〇〇・〇〇 四、青少年訓練指導費 五、一〇〇・三三 五、汽罐士講習會費 三、五八八・七六 六、アセナレン熔接士講習會費 三、八四四・三三 七、工場事務擔當者講習會費	一、機關紙 一九、四八・三三 二、指導資料 三九、四七・四四 三、レコード製作費 六、六八・〇〇 四、ポスター 五、五九・四八 五、其他印刷物 一、三三・三三	一、保健施設 八、〇九八・〇六 1 海水浴施設 六、四一三・二四 2 武道、弓道、相撲、野球、陸上、卓球、騎傳、陸上各大會費用及各種體育會參加費一六、四七七・三六 二、文化機關動員費 一〇、三三三・三三 1 勤勞者厚生大會費 一、三三九・六五 2 劇、映畫觀賞會費 一、〇〇〇・〇〇 3 相撲、觀賽會費 一、〇〇〇・〇〇 4 映畫フィルム購入費 七、〇三三・七七 5 厚生音樂詩吟演劇指導費 一、九〇〇・〇〇 三、體育指導者講習會費 四、〇八六・七七 四、技能者養成費技能競技會費 一、一八四・六六

第九目 支部事業補助費	第八目 産業基本調査費	第七目 協力費	第六目 生産増進費	第五目 指導諸費	第四目 熟練管理費	第三目 技術講習費	第二目 技術練習費	第一目 安全運動指導費
一五〇、〇〇〇・〇〇	一一、一二〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇	六、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	一五、五〇〇・〇〇	一五、〇〇〇・〇〇	一〇、〇〇〇・〇〇
一〇七、一〇〇・〇〇	—	五、五〇〇・〇〇	—	—	—	一五、六八〇・〇〇	一七、〇〇〇・〇〇	一〇、五二〇・〇〇
四二、九〇〇・〇〇	一一、一二〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	六、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	一八〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	五二〇・〇〇
事業補助費 五〇〇、〇〇〇圓	新設 組織整備費 産報生活調査 一〇、〇〇〇圓	新設	新設	新設	新設	汽罐士講習會費 アセチレン溶接士講習會費 工場事務擔當者講習會費 一、五〇〇圓	修熟者技能競練費 養成工技能競練費 五〇〇圓	安全週間施行費 指導獎勵費 七、〇〇〇圓 委員會費 一、〇〇〇圓 工場公害防止指導費 五〇〇圓

第三目 指導費	第二目 指導費	第四目 文化勞務費	第五目 産業衛生指導費	第六目 必需品給費	第七目 其他厚生費
六、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	一三四、〇〇〇・〇〇	五、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	二七七、六二〇・〇〇
五、六三〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	一五〇、二一五・〇〇	—	五、〇〇〇・〇〇	二三三、二一六・六五
一、六三〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	一六、二一五・〇〇	五、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	四四、四〇三・三五
産業指導者講習會 體操實演 一、〇〇〇圓 調理講習 一、〇〇〇圓 研究費 二、〇〇〇圓 講演費 一、〇〇〇圓	厚生大會費 三、〇〇〇圓 劇映畫大會費 八〇〇圓 相撲觀賞費 (持寄會費) 二〇〇圓 厚生音樂費 (持寄會費) 一〇〇圓 FILM購入費 (持寄會費) 五〇〇圓 紙芝居講習會(新設) 慰問演藝班(新設) 文化指導獎勵費 五〇〇圓	新設	新設	新設	新設

萬久堀新鳥築京月愛三高三六赤四神早富大本駒上坂谷象

世居場本樂稻富

橋松留橋地坂橋島橋田岩島橋田輪木坂谷坂田坂塚士込野本中湯

九三八・五二
一二六・〇〇
六七二・八四
四三〇・二〇
二、〇七九・三六
一、九三〇・六八
一、二九四・二〇
三、二一五・八八
一、五〇四・八〇
八、八七六・八八
二、九四五・八八
一八一・〇〇八
五五二・九六
一、三〇九・三二
九三四・五六
五八一・四〇
二、一四六・六八
九四三・四〇
三〇八・八八
三七三・三二
二、五一六・〇四
四二一・五六
一九一・一六
五一五・一六

日藏菊兩太麗平言扇洲品大大花東浦世玉目澁原代淀

本屋調田

堤前橋國平橋問野橋崎川井崎原森布田谷川黑谷宿木橋

六七六・四四
三八四・四八
五二三・八〇
二、五七一・四八
三、九三四・〇八
二、一五三・八八
三、七六三・〇八
一、一四六・六〇
一、七二〇・八〇
二、三七二・四〇
七、一七九・一二
六、三六五・七〇
七、六〇四・二八
二、二七三・〇四
八、八二八・二八
八九二・八〇
二八、七五三・二〇
一、七三八・八〇
六一九・五六
二、七五一・四八
三、四三七・六四
一、三二一・二〇
二、二七六・六四
一、四九二・二〇

支 部 名

丸 龜

内 町 名

納 入 額
一、〇四一・八二
六、三四二・八四

支 部 名

西 錦

神 部 名

納 入 額
一、三二二・九二
一、八六一・五六

(三) 道場會計收支一覽
道場基金釀出表

歲 出	第一項 豫備費	第五款 豫備費	第一項 報大日本產報會費	第四款 大日本產報會費	第七目 雜持費	第十目 表彰慰靈祭費	第十目 表彰慰靈祭費
二、四六一、八八〇・〇〇	一五、〇〇〇・〇〇	一五、〇〇〇・〇〇	四四〇、〇〇〇・〇〇	四四〇、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	二〇、〇〇〇・〇〇	三五、〇〇〇・〇〇
二、四一九、六五九・一五	八六、〇〇一・〇〇	八六、〇〇一・〇〇	四三九、五三一・五〇	四三九、五三一・五〇	五、八八六・六五	七、八〇〇・〇〇	六三、七三〇・〇〇
四二、二二〇・八五	七二、〇〇一・〇〇	七二、〇〇一・〇〇	四六八・五〇	四六八・五〇	二、八八六・六五	二八、七三〇・〇〇	優良產報會表彰費 三〇、〇〇〇圓 產業人慰靈祭費 三〇〇〇〇 殉職會員弔慰金 二、〇〇〇〇

野方並 杉並 萩壑 巢鴨 池袋 目白 瀧川 板橋 練馬 王子 赤羽 尾久 南千住 三軒 日暮里 千代田 西新井 寺島 吾嬬 葛飾 龜戸 砂町 小松川 東京水上

七	一	三	三	六	二	九	一	二	五	三	六	六	二	二	三	六	三	六	一
三六	一	二〇	七	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	六	四	二	七	一	七	〇	六	七	六	一	一〇	八	二	二	八	一	一	一
五六	一	五	六	三	二	三	三	六	七	六	一	五	三	三	三	〇	一〇	〇	〇
一	一	六	一	三	二	四	二	四	一	五	四	三	四	一	三	一	三	一	三
一	一	二	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	四	三	五	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二八	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

野塚 中戸 淀橋 代木 原宿 遊谷 碑谷 目黒 玉川 世田 蒲田 東調 大森 荏原 大大崎 品川 洲崎 扇橋 平野 言問 厩橋 太平 兩國

二	八	三	三	三	二	七	六	二	四	九	八	五	九	九	五	三	七	七	三
四	五	五	七	七	一	〇	〇	二	二	三	一	二	二	一	二	一	一	一	一
七	三	六	一〇	二	三	七	四	三	四	七	一〇	六	三	一〇	三	二	五	二	六
五	七	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	三	八	四	四	四	五	五	四	一〇	四	二	四	一	二	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

産業人作品展覧會

東京市電氣局產業報國會議事	○千原要	丸之内一四一一	勤先	麹町區丸之内東京市電氣局勞動課
警視廳特別高等警察部勞動兼課長	○大谷喜一郎	銀座五五一(10)	勤先	警視廳特別警察部
大野化學株式會社社長	大野巖	大森三四四四	勤先	世田谷區北澤三ノ一〇〇九 大森區森ヶ崎七〇大野化學機械株式會社
鐵道省監督局鐵道省事務官	渡邊幸義	丸之内一五五一	勤先	麹町區六番丁五ノ三 鐵道省監督局鐵道課
新潟鐵工所產業報國會議事	○加納憲治	蒲田一五三一	勤先	蒲田區本蒲田五ノ四新湯鐵工所蒲田工場
橫濱製油產業報國會議事	橫瀨精一	駒込一〇六九	勤先	瀧野川區中里町三三五 瀧野川區上中里町五四七
警視廳保安衛生部交通課長	高見三郎	銀座〇五五二	勤先	警視廳
東京憲兵隊特高課長	高田典文	九段四一九五	勤先	麹町區竹平町三(官舎) 東京憲兵隊本部
東京自動車工業株式會社社長	田坂政養	大森七五九〇	勤先	大森區新井宿二ノ一五二七 品川區品川五ノ六一五二七
東京府學務部社會教育課長	高橋佐久松	丸之内〇一八一	勤先	東京府社會教育課
海軍艦政本部員	大道友雄	銀座五〇二八	勤先	大森區調布嶺町一ノ四五 麹町區霞ヶ關海軍艦政本部總務部第四方面
石川島自彊會常任理事	中山正則	丸之内三三八九	勤先	杉並區堀之内一ノ一三〇 麹町區丸之内三ノ四日本石油株式會社
東京產業報國會議事	○栗原邦志	牛込橋二六四六	勤先	牛込區北山伏町四三 京橋區佃島五十四石川島造船所
警視廳保安衛生部工場課長	○	九段四四六七	勤先	澁谷區神山町十一(產報道場內) 麹町區九段三ノ二(東京產報)
		銀座五五一	勤先	警視廳保安衛生部

三井鐵山產業報國會議事	○深川正夫	日本橋三三四〇	勤先	麹町區平河町二ノ二 日本橋區室町二ノ一 三井鐵山會社本店勞務課
宇野鐵工所產業報國會議事	古屋了	荏原五〇六七	勤先	大森區上池上町一ノ一二四 世田谷區原根町四〇〇 わかもと本舖東京工場
千代田機械製靴株式會社社長	○福島松男	北八幡一〇一六五	勤先	市川區八幡七六七 向島區吾嬭町東一ノ七八 千代田製靴株式會社
警視廳保險課長	小林伊三郎	銀座五五一(10)	勤先	警視廳保險課
大日本ビル産業報國會議事	財滿秀雄	墨田二〇七七	勤先	本所區向島須崎町一七九 本所區吾嬭橋一ノ二五 大日本製酒株式會社吾嬭橋工場
大東紡織產業報國會議事	○目谷善次郎	大塚三六二六	勤先	小石川區大塚坂下町六六 日本橋區蠣殼町二一六六 大東紡織株式會社
東西機械產業報國會議事	皆川利吉	高森八六一七	勤先	芝區白金三光町七一 大森區大森八ノ八七三七 東西機械製作所
南印刷產業報國會議事	南金太郎	淺草五〇二四	勤先	淺草區小島町二ノ一五 南印刷所
三菱製紙株式會社社長	○森田良雄	新宿〇〇〇三	勤先	葛飾區金町四ノ一六七九 葛飾區新宿五丁目三 三菱製紙株式會社中川工場
		荏原二六四五	勤先	杉並區荏原一ノ一三三

支 部 名
丸 之 内 町 植 高 氏 評 議 員 木 羽 憲 名 雄 次
所屬產報會名及同產報會ニ於ケル役名
高 羽 被 服 產 報 會 長
東 京 市 電 氣 局 產 報 會 長

八 大 五 青 田 府 町 八 東 小 砂 龜 葛 吾

丈 日 京 松
王 永

島 島 市 梅 無 中 田 子 上 川 町 戶 飾 婿

西 山 田 川 澤 中 木 片 和 竹 油 吉 大 杉

川 本 中 杉 守 島 本 倉 田 井 田 和 田
仙 源 進 桑 亮 顯 俊 尙 田 眞 與
福 盤 銀 太 十 治 藏 平 治 郎 郎 操 郎 郎 太 次

吉 彦 藏 郎 郎 治 藏 平 治 郎 郎 操 郎 郎 太 次

株式會社杉田屋産報會長
大和ゴム産報會長
産報日立龜戶工場温交會長
日本鑄鋼株式會社産報會長
ライオン油脂株式會社産報副會長
郵船運輸株式會社産報會長
片倉製糸紡績會社八王子製糸所産報會長
岡第三醬油釀造工場産報會長
日本無線電信電話株式會社産報國會長
中島飛行機武藏野製作所産報會長
西多摩郡調布村河邊九八〇
田中製材工場産報會長
大島旭光事業産報會長
坂下産報會長

寺 西 千 日 三 南 尾 赤 王 練 板 瀧 目 池 巢 荻 杉 野 中 戶 淀 代 原 誰

新 暮 河 千 野 *

島 井 住 里 島 住 久 羽 子 馬 橋 川 白 袋 鴨 龜 並 方 野 塚 橋 木 宿 谷

新 湯 宮 眞 増 福 磯 西 伊 西 各 中 松 安 山 濕 西 高 橋 菊 杉 下 池 松

井 淺 野 野 岡 部 藤 和 村 尾 西 本 美 野 濱 菊 浦 杉 下 池 松
義 清 清 秀 一 藤 健 福 秀 次 之 吟 三 有 久 誠 村 邊 尾
藏 一 次 術 門 勇 男 次 三 郎 助 雄 作 郎 助 隣 吉 郎 保 生 吾

太 郎 治 郎 香 而 郎 門 勇 男 次 三 郎 助 雄 作 郎 助 隣 吉 郎 保 生 吾

松尾螺子産報會長
小田急交通報國會長
日本タイプライター工場産報會長
六櫻社産報會長
オリエンタル産報會長
中野伸銅所産報會長
生盛藥劑産報會長
八州光學産報會長
中野乘合産報會長
山洋産報會長
安西鑄物産報會長
松尾毛糸紡績所産報會長
中村ドラム鐘工業株式會社産報會長
株式會社各和製作所
小田原製紙株式會社東京工場産報支部長
豐島區池袋四ノ三九五
日本色素産報會長
旭電化産報會長
荒川區南千住町一ノ七五
株式會社増野製作所産報會長
合資會社トンボハーモニカ手風琴製作所産報會長
大和毛織株式會社産報會長
日立龜有工場産報温交會長
鐘紡東京工場長



日	月	年	冊
9	12	404	404
産業報國運動部概要			
D61677A1A-1796A300			

1
1
1
1
1
1
1
1
1
1
2
2
2
2
2
2
26
27
28
30
31
32
33
34
35

製本控

26	菅 祝 昭	勞 務 調 整 令 解 説
27	權 田 保 之 助	産 業 青 年 よ 於 持 を 持 て (産 報 の 葉 四)
28	竹 田 敏 彦	輝 か し き こ の 名 を 護 れ (産 報 の 葉 五)
30	安 藤 紀 三 郎	翼 賛 選 舉 (産 報 の 葉 六)
31	氏 家 壽 子	戦 時 下 の 家 庭 経 済
32	東 京 産 報	産 業 報 國 青 年 隊 練 成 要 領
33	平 出 英 夫	第 三 十 七 回 海 軍 記 念 日 を 迎 へ て (産 報 の 葉 七)
34	高 村 光 太 郎	美 の 世 界 (産 報 の 葉 八)
35	青 木 誠 四 郎	青 少 年 工 の 心 理 と そ の 取 扱 ひ に 就 い て

目 (既 刊)

運 動 要 綱
 動 に 就 て
 戦 時 體 制 の 運 營
 による 月 給 制 度
 の 轉 換
 談 會 の 運 用
 業 の 道 來
 状 と 將 來
 論 述
 營 に 就 て
 消 費 量 の 節 約
 組 織 要 項
 の 體 験 談
 と 實 踐
 政 翼 賛 運 動 萃
 議 議 事 錄 拔 萃
 其 の 實 踐
 の 三 大 重 點
 療 養 陣
 (産 報 の 葉 一)
 務 指 導
 懇 話 (産 報 の 葉 二)
 新 動 向
 (産 報 の 葉 三)
 貯 蓄 問 題

考
備

發行所 東京産業報國會

電話九段(3) 四四七六二七二
 振替口座・東京一六七七一

東京市麹町區九段三ノ二

複 不
製 許

昭和十七年九月十八日印刷
 昭和十七年九月廿一日發行

印刷所	印刷人	編輯兼 行人
協榮印刷所	菅生定祥	藤村利常
東京市神田區錦町三ノ二	東京市神田區錦町三ノ二	東京市麹町區九段三ノ二
東京三一九八		

(非賣品)



東京産業報國運動資料 (既刊)

- | | | |
|----|--------|-----------------------|
| 1 | 厚生省労働局 | 産業報國運動要綱 |
| 2 | 平生夙三郎 | 産業報國運動に就て |
| 3 | 佐倉重夫 | 我が経済国力と戦時體制の運営 |
| 4 | 渡部旭 | 賃金制より見たる月給制度 |
| 5 | 齋藤敏雄 | 労働政策の轉換 |
| 6 | 深川正夫 | 産業報國會懇談會の運用 |
| 7 | 吉田茂 | 皇國産業の道 |
| 8 | 美濃部洋次 | 統制經濟の現状と將來 |
| 9 | 迫水久常 | 統制經濟論 |
| 10 | 警視廳 | 懇談會運営に就て |
| 11 | 警視廳 | 煤煙防止と石炭消費量の節約 |
| 12 | 大日本産報 | 産報青年隊組織要項 |
| 13 | 福島松男 | 月給制度實施の體驗談 |
| 14 | 輝峻義等 | 産報會理念と實踐 |
| 15 | 栗原美能留 | 産報青年隊の大政翼賛運動 |
| 16 | 大政翼賛會 | 第一回中央協力會議議事録抜萃 |
| 17 | 太田悌藏 | 日本精神と其の實踐 |
| 18 | 南岩男 | 産報運動展開の三大重點 |
| 19 | 警視廳 | 結核豫防と療養陣 |
| 20 | 吉川英治 | この汗、この光輝(産報の葉一) |
| 21 | 桐原葆見 | 女子の勞務指導 |
| 22 | 小畑忠良 | 決戦下の年頭産業戦士に慰ふ(産報の葉二) |
| 23 | 根上耕一 | 經營の新動向 |
| 24 | 安藤覺 | 南洋(産報の葉三) |
| 25 | 警視廳 | 勞務管理と貯蓄問題 |
| 26 | 警視廳 | 勞務調整令解説 |
| 27 | 権田保之助 | 産業青年よ矜持を持て(産報の葉四) |
| 28 | 竹田敏彦 | 輝かしきこの名を護れ(産報の葉五) |
| 30 | 安藤紀三郎 | 翼賛選舉(産報の葉六) |
| 31 | 氏家壽子 | 戦時下の家庭經濟 |
| 32 | 東京産報 | 産業報國青年隊鍊成要領 |
| 33 | 平出英夫 | 第三十七回海軍記念日を迎へて(産報の葉七) |
| 34 | 高村光太郎 | 美の世界(産報の葉八) |
| 35 | 青木誠四郎 | 青少年工の心理とその取扱ひに就いて |

複 不
製 許

昭和十七年九月十八日印刷
昭和十七年九月廿一日發行

(非賣品)

發行所 東京産業報國會

東京市麹町區九段三ノ二

電話九段(3)一四五八二一七二
振替口座・東京一六七七七

編輯兼
發行人

東京市麹町區九段三ノ二
藤村利常

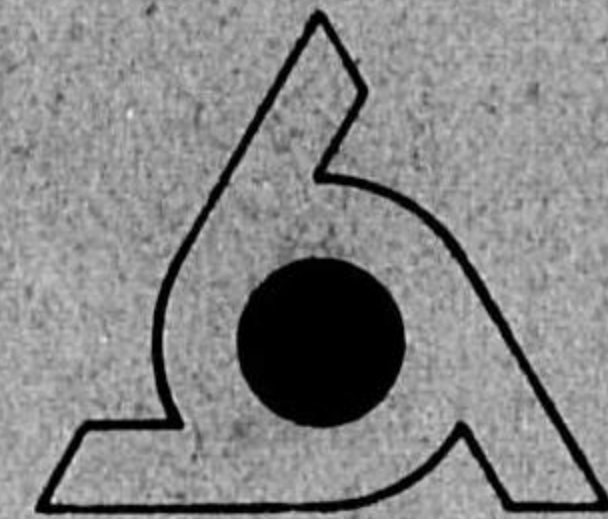
印刷人

菅生定祥
東京市神田區錦町三ノ二

印刷所

協榮印刷所
東京市神田區錦町三ノ二
東京三一九八

509.19
T046



終